

授業科目名： ソルフェージュ I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉田あかね、丹羽菜月
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ソルフェージュ		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正確なリズム分割が行えるようになる。</li> <li>2. 音程の感覚を身につける。</li> <li>3. 音に対する反射的な能力や記憶力を養う。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>音楽家として必要不可欠であるソルフェージュの基礎的な能力の育成を行う。「視唱」「聴音」「リズム」の三つのトレーニングを柱とし、楽典や和声の知識と結びつけながら、読譜や表現に必要なソルフェージュ能力を高めていく。その上で将来的な演奏の現場や音楽教育に活かせるようになることを目標とする。なおクラス配置（初級クラス、中級クラス）は、試験の結果を踏まえて行うこととし、クラス毎に授業内容および難易度は異なる。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：視唱、各音程の確認			
第3回：視唱、各音程の確認、新曲視唱			
第4回：視唱、音階			
第5回：視唱、限定進行音等の音楽機能			
第6回：視唱、単純拍子の理解			
第7回：視唱、複合拍子の理解			
第8回：視唱、拍の分割			
第9回：視唱、二声リズムの理解			
第10回：視唱（重唱）、単旋律の聴音			
第11回：視唱（重唱）、単旋律の記憶聴音			
第12回：視唱、和音の種類（導入）			
第13回：視唱、カデンツ（導入）			
第14回：視唱、リズムアンサンブル			
第15回：前期の総括			
定期試験			
テキスト			
『視唱とリズムーハ音記号とアンサンブルを中心とした課題集』：三恵社			

著：成木理香、安野太郎、丹羽菜月他

以上に加えて毎回の授業でプリントを配布し、練習課題として併用する。そのほか、バロックから現代に至る音楽作品も教材として使用する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験60%、実技30%、受講態度10%

授業科目名： ソルフェージュⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉田あかね、丹羽菜月
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ソルフェージュ		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. より複雑なリズムを正確に演奏することができる。</li> <li>2. より複雑な音程の感覚を身につける。</li> <li>3. 身に付けた和声感を、演奏する際に意識できるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>ソルフェージュⅠに引き続き、音楽家として必要不可欠であるソルフェージュの基礎的な能力の育成を行う。「視唱」「聴音」「リズム」「読譜」「理論」の五つのトレーニングを柱とし、楽典や和声の知識と結びつけながら、音楽的表現に関わる基礎的なソルフェージュ能力を修得すると共に、音楽への理解を深め、将来的に自分の力で音楽を築いていけるようになることを目的とする。また音楽史の知識と関連し、作品の生まれた時代背景や、時代ごとの作曲様式の違いについても理解できるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス / ソルフェージュⅠの復習			
第2回：視唱、三声体聴音（導入）			
第3回：視唱、連符			
第4回：視唱、三声体聴音（基礎）			
第5回：視唱（重唱）、リズム付き新曲視唱（2拍子）			
第6回：視唱、リズム付き新曲視唱（3拍子・4拍子）			
第7回：視唱（重唱）、動きのある単旋律の聴音			
第8回：視唱、複雑な音程を含む単旋律の聴音			
第9回：視唱、四声体密集の聴音（導入）			
第10回：視唱（重唱）、四声体密集の聴音（基礎）			
第11回：視唱、和音の種類（基礎）			
第12回：視唱、二声聴音（導入）			
第13回：視唱、カデンツ（基礎）			
第14回：視唱、二声聴音（基礎）			
第15回：後期の総括			
定期試験			

テキスト

『視唱とリズムーハ音記号とアンサンブルを中心とした課題集』：三恵社 著：成本理香、安野太郎、丹羽菜月他

以上に加えて毎回の授業でプリントを配布し、練習課題として併用する。そのほか、バロックから現代に至る音楽作品も教材として使用する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験60%、実技30%、受講態度10%

授業科目名： 声楽・ミュージカル実 技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名： 菅英三子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な発声の技術を身につける。</li> <li>2. 楽曲の表現に必要な技術を身につける。</li> <li>3. 楽曲の内容を理解して表現する力を養う。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>声楽の基礎となる呼吸法、発声、発音などの専門技術を修得し、表現力の向上をめざす。15回にわたる個人レッスンを通じて、各学生に必要な課題を発見し、才能を引き出すための個別指導を行う。主に教則本を使用し、基礎技術の確認と強化を図りながら、イタリア古典歌曲の中から各自の声質に合った曲を選曲する。楽曲の内容理解を深め、正確な音程やリズムでの演奏力を養うとともに、感情豊かな表現力を身につける。また、歌唱における身体の使い方や音楽的解釈の重要性についても学び、個々成長を支援することを目的とする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：前期の学習計画の策定			
第2回：歌唱のための発声について ①姿勢と呼吸			
第3回：歌唱のための発声について ②共鳴			
第4回：歌唱のための発声について ③呼吸の支えと歌声			
第5回：歌唱のための発声について ④体のバランスと重心			
第6回：歌唱のための基礎的な技術 ①正しい音程とリズム			
第7回：歌唱のための基礎的な技術 ②強弱の表現			
第8回：歌唱のための基礎的な技術 ③フレージング			
第9回：歌唱のための基礎的な技術 ④曲想の表現			
第10回：歌唱のためのイタリア語 ①基礎的な発音			
第11回：歌唱のためのイタリア語 ②歌詞としての発音			
第12回：歌唱のためのイタリア語 ③詩としての発音			
第13回：音楽的な表現 ①基礎の総合			
第14回：音楽的な表現 ②フレーズの表現			
第15回：音楽的な表現 ③前期のまとめ			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜紹介する。(受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する)

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験70%、受講態度30%

授業科目名： 声楽・ミュージカル実 技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 菅英三子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期で学んだ基礎技術を発展させることができる。</li> <li>2. 楽曲の理解を深め、表現を豊かにする。</li> <li>3. 幅広い楽曲を学ぶ。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「声楽・ミュージカル実技I」で修得した呼吸法、発声、発音などの基礎技術をさらに発展させ、表現力の獲得をめざす。15回の個人レッスンを通じて、各学生に合わせた課題を見つけ出し、才能を引き出す指導を行う。教則本による基礎訓練に加え、イタリア古典歌曲に続き、ロマン派の歌曲やモーツァルトのオペラアリアの中から各自の声質や技術に合った曲を選曲し、指導を行う。学生は楽曲の内容を深く理解し、音程やリズムの正確さを追求し表現力を磨くことを目的とする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：後期の学習計画の策定			
第2回：発声と呼吸の確認			
第3回：共鳴の確認			
第4回：体のバランスと重心の確認			
第5回：歌唱のための発声の確認			
第6回：歌唱表現 楽曲を理解する			
第7回：歌唱表現 歌詞を理解する			
第8回：歌唱表現 楽曲に相応しい表現を探る			
第9回：歌唱表現 楽曲の理解を深める			
第10回：歌唱表現 歌詞の理解を深める			
第11回：歌唱表現 楽曲に相応しい表現を深める			
第12回：新しいレパートリーに取り組む 楽曲の理解			
第13回：新しいレパートリーに取り組む 歌詞の理解			
第14回：新しいレパートリーに取り組む 表現を考える			
第15回：後期のまとめ			
定期試験			

テキスト

授業中に適宜紹介する。（受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験70%、受講態度30%

授業科目名： 副科声楽 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鶴田智子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発声法の修得に必要な身体の使い方を理解することができる。</li> <li>2. 発声法の修得をめざし、意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>3. 西洋音楽に基礎を置いた発声法でうたうことができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>ピアノコースのみ履修可。「副科声楽 I」は、声楽の基礎である呼吸法と発声技術の修得をめざし、正確な音程とリズムで表情豊かに歌う力を身につけることを目的とした授業である。15回のレッスンを通して個別に指導を行う。教材として、コンコーネ50番とイタリア古典歌曲を使用し、各学生に合った曲を選曲し、音楽表現を深めるための練習を行う。学生は自分の声の特徴を理解し、適切なテクニックを修得することで、より豊かな歌唱力を身につけることが期待できる。20分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は40時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業内容の説明			
第2回：声楽の基礎練習 呼吸法 発声			
第3回：発声練習（コンコーネ50番1,2・イタリア歌曲①） 音程、リズム			
第4回：発声練習（コンコーネ50番3,4・イタリア歌曲①） 発音			
第5回：発声練習（コンコーネ50番5,6・イタリア歌曲①） 表現			
第6回：発声練習（コンコーネ50番7,8・イタリア歌曲②） 音程、リズム			
第7回：発声練習（コンコーネ50番 9・イタリア歌曲②） 発音			
第8回：発声練習（コンコーネ50番 10・イタリア歌曲②） 表現			
第9回：発声練習（コンコーネ50番 11・イタリア歌曲③） 音程、リズム			
第10回：発声練習（コンコーネ50番 12・イタリア歌曲③） 発音			
第11回：発声練習（コンコーネ50番 13・イタリア歌曲③） 表現			
第12回：発声練習 イタリア歌曲①～③より試験曲の選定			
第13回：試験曲 ピアノ合わせ バランス			
第14回：試験曲 ピアノ合わせ 表現の工夫			
第15回：試験曲 ピアノ合わせ 仕上げ 前期のまとめ			
定期試験			

## テキスト

コンコーネ50番 畑中良輔 編 全音楽譜出版社 1955年 ¥1,100

イタリア歌曲集1 [新版] 畑中良輔 編 全音楽譜出版社 2012年 ¥2,200

## 参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

## 学生に対する評価

実技試験80%、受講態度20%

授業科目名： 副科声楽Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鶴田智子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 発声法の修得に必要な身体の使い方を理解することができる。</p> <p>2. 発声法の修得をめざし、意欲的に課題に取り組むことができる。</p> <p>3. 西洋音楽に基礎を置いた発声法でうたうことができる。</p>			
授業の概要			
<p>ピアノコースのみ履修可。「副科声楽Ⅱ」では、「副科声楽Ⅰ」で学んだ基礎をさらに発展させ、呼吸法や発声技術を強化し、正確な音程とリズムでより表情豊かに歌えるようになることをめざす。15回のレッスンを通して、各学生に必要な課題を見つけ、それぞれの才能を伸ばす個別指導を行う。教材として、コンコーネ50番とイタリア古典歌曲を引き続き使用し、各自の声質や技術に合った楽曲を選曲する。楽曲の内容理解を深めることで、より豊かな音楽的表現ができるようになることをめざす授業である。20分15回のレッスン科目として開講し、準備学習(予習・復習)の総時間は40時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業内容の確認と前期の復習			
第2回：声楽の基礎練習 呼吸法 発声 共鳴			
第3回：発声練習 (コンコーネ50番14・イタリア歌曲④) 音程、リズム			
第4回：発声練習 (コンコーネ50番15・イタリア歌曲④) 発音			
第5回：発声練習 (コンコーネ50番16・イタリア歌曲④) 表現			
第6回：発声練習 (コンコーネ50番17・イタリア歌曲⑤) 音程、リズム			
第7回：発声練習 (コンコーネ50番18・イタリア歌曲⑤) 発音			
第8回：発声練習 (コンコーネ50番19・イタリア歌曲⑤) 表現			
第9回：発声練習 (コンコーネ50番20・イタリア歌曲⑥) 音程、リズム			
第10回：発声練習 (コンコーネ50番21・イタリア歌曲⑥) 発音			
第11回：発声練習 (コンコーネ50番22・イタリア歌曲⑥) 表現			
第12回：発声練習 イタリア歌曲④～⑥より試験曲の選定			
第13回：試験曲 ピアノ合わせ バランス			
第14回：試験曲 ピアノ合わせ 表現の工夫			
第15回：試験曲 ピアノ合わせ 仕上げ 前期のまとめ			
定期試験			
テキスト			

コンコーネ50番 畑中良輔 編 全音楽譜出版社 1955年 ¥1,100

イタリア歌曲集1 [新版] 畑中良輔 編 全音楽譜出版社 2012年 ¥2,200

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験80%、受講態度20%

授業科目名： 合唱 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：鶴田智子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の構成や歌詞の理解を深めることができる。</li> <li>2. 合唱の美しさを求め、意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>3. さまざまな様式の合唱音楽を実践することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「合唱 I」では、ルネッサンスから現代までの多彩な作品に取り組み、呼吸法や発声の基本を学ぶとともに、正確なリズムや音程 で歌う力を養う。無理のない自然な発声を重視し、ハーモニー作りの基礎を身につける。アンサンブルにおいては、仲間と共に一 体感を持って歌う楽しさを体感し、聴衆に感動を伝える力を高めることをめざす。また、日本の伝統的歌唱を含む合唱を通じて音楽的表現力と協調性を培 い、より豊かな音楽体験を提供する力を養成する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業内容の説明 パート分け			
第2回：合唱のための基礎学習 発声、ハーモニーについての実践			
第3回：合唱のための基礎学習 発声、呼吸法についての実践			
第4回：（ア・カペラ作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第5回：（ア・カペラ作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第6回：（世界の作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第7回：（世界の作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第8回：（日本の作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第9回：（日本の作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第10回：（宗教作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第11回：（宗教作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第12回：（ポピュラー作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第13回：（ポピュラー作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第14回：演奏会用のプログラムの選曲と歌唱練習①			
第15回：演奏会用のプログラム構成の確認と歌唱練習② 前期のまとめ			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

コールユーブンゲン巻1 音楽之友社 城多又兵衛

学生に対する評価

レポート20%、実技50%、受講態度30%

授業科目名：合唱Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鶴田智子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の構成や歌詞の理解を深めることができる。</li> <li>2. 集大成としての演奏会を目標に、意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>3. より質の高い合唱音楽をめざし、実践することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「合唱Ⅱ」では、「合唱Ⅰ」で修得した基礎をさらに発展させ、ルネッサンスから現代までの幅広い作品や、日本の伝統的歌唱を含む作品に取り組みながら、実践的な演奏力と表現力を養う。呼吸法や無理のない自然な発声法を強化し、楽曲の構成理解を深め、正確なリズムと音程で歌う力を向上させる。また、他者との調和を通じて合唱の魅力を表現し、聴衆に感動を伝える演奏をめざすとともに、個々の技術とアンサンブル力を高め、合唱パフォーマンスの向上をめざす授業である。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：演奏会用プログラムの確認			
第2回：課題曲の練習 構成の理解、発語の理解と実践			
第3回：課題曲の練習 デュナーミクの表現方法の理解と実践			
第4回：課題曲の練習 アゴーギクの表現方法の理解と実践			
第5回：課題曲の練習 フレージングの表現方法の理解と実践			
第6回：課題曲の練習 アーティキュレーションの表現方法の理解と実践			
第7回：課題曲の練習 ピアノ伴奏との合わせ			
第8回：学外演奏会に向けての総合練習 ポイントの再確認			
第9回：学外演奏会に向けての総合練習 通し稽古			
第10回：学外演奏会の振り返り			
第11回：新しい曲の選定			
第12回：11で選定した曲の練習 構成、発音、旋律の理解			
第13回：11で選定した曲の練習 音程、リズム、表現の理解と実践			
第14回：11で選定した曲の練習 ピアノ伴奏との合わせ 表現の工夫と実践			
第15回：後期授業のまとめ			
定期試験			
テキスト			

授業中に適宜紹介する。

参考書・参考資料等

コールユーブンゲン巻1 音楽之友社 城多又兵衛

学生に対する評価

レポート20%、実技50%、受講態度30%

授業科目名：合唱Ⅲ	教員の免許状取得のための選 択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鶴田智子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の構成や歌詞の理解を深めることができる。</li> <li>2. 合唱の美しさを求め、意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>3. さまざまな様式の合唱音楽を実践することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「合唱Ⅲ」では、「合唱Ⅱ」で学んだ基礎をさらに発展させ、ルネッサンスから現代までの幅広い作品、日本の伝統的歌唱を含む作品を実践的に取り扱う。呼吸法 や発声、ハーモニー作りの基本を継続して学び、アンサンブル力をさらに高める。作曲家や作品に対する理解を深め、楽譜を丁寧に読み込み、アーティキュレーションや細かな表現に注意を払いながら歌い、仲間と共に創り上げる合唱の美しさを体感し、その感 動を聴衆に伝えられるよう、演奏技術と音楽的表現力の向上をめざす授業である。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業内容の説明 パート分け			
第2回：合唱のための基礎学習 発声、ハーモニーについての実践			
第3回：合唱のための基礎学習 発声、呼吸法についての実践			
第4回：（ア・カペラ作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第5回：（ア・カペラ作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第6回：（世界の作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第7回：（世界の作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第8回：（日本の作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第9回：（日本の作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第10回：（宗教作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第11回：（宗教作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第12回：（ポピュラー作品①） 構成、発音、旋律の理解			
第13回：（ポピュラー作品②） 音程、リズム、表現の理解と実践			
第14回：演奏会用のプログラムの選曲と歌唱練習①			
第15回：演奏会用のプログラム構成の確認と歌唱練習② 前期のまとめ			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

コールユーブンゲン巻1 音楽之友社 城多又兵衛

学生に対する評価

レポート20%、実技50%、受講態度30%

授業科目名：合唱Ⅳ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鶴田智子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の構成や歌詞の理解を深めることができる。</li> <li>2. 集大成としての演奏会を目標に、意欲的に課題に取り組むことができる。</li> <li>3. より質の高い合唱音楽をめざし、実践することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「合唱Ⅳ」では、「合唱Ⅲ」で培った技術をさらに発展させ、ルネッサンスから現代までの多様な作品、日本の伝統的歌唱を含む作品をとおして、呼吸法や発声、ハーモニー作りの基礎を強化する。作曲家や作品への理解を深め、楽譜を丁寧に読み込み、各フレーズを音楽的に表現する力を養う。仲間との協力を通じて合唱音楽の美しさと創造過程を体感し、後期の演奏会に向けて技術と表現力の向上を図り、聴衆に感動を与える高度な演奏をめざし、音楽的な成熟を追求する授業である。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：演奏会用プログラムの確認			
第2回：課題曲の練習 構成の理解、発語の理解と実践			
第3回：課題曲の練習 デュナーミクの表現方法の理解と実践			
第4回：課題曲の練習 アゴーギクの表現方法の理解と実践			
第5回：課題曲の練習 フレー징の表現方法の理解と実践			
第6回：課題曲の練習 アーティキュレーションの表現方法の理解と実践			
第7回：課題曲の練習 ピアノ伴奏との合わせ			
第8回：学外演奏会に向けての総合練習 ポイントの再確認			
第9回：学外演奏会に向けての総合練習 通し稽古			
第10回：学外演奏会の振り返り			
第11回：新しい曲の選定			
第12回：11で選定した曲の練習 構成、発音、旋律の理解			
第13回：11で選定した曲の練習 音程、リズム、表現の理解と実践			
第14回：11で選定した曲の練習 ピアノ伴奏との合わせ 表現の工夫と実践			
第15回：後期授業のまとめ			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜紹介する。			

参考書・参考資料等

コールユーブンゲン巻1 音楽之友社 城多又兵衛

学生に対する評価

レポート20%、実技50%、受講態度30%

授業科目名： ピアノ実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 岡田敦子、野口誠司、安村真紀、吉田あかね、田中正也 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 練習方法を工夫できるようになる。</li> <li>2. 楽曲について説明できるようになる。</li> <li>3. 基礎を理解し表情豊かな演奏を工夫できるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>ピアノ演奏に必要な知識・技術・表現力・演奏力を身につける。1年次では、技術の獲得として学生の能力に合わせたショパンやモシュコフスキーなどの練習曲、バロック、古典派を中心に課題を出し、表現豊かな演奏するための技術を獲得させる。美しい音は、指の独立、タッチ、脱力などが必要である。それらを含みながら指導する。楽譜の分析は重要であり、作曲家のスタイルや時代背景などを探り、意見を交えながら行う。各自の課題を見つけさせ練習方法のアドバイスをを行い改善できるようにする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 授業概要を理解し指導教員と学習計画を立てる</p> <p>第2回：これまでの演奏してきたレパートリーを確認し、前期に練習する作品を選択する</p> <p>第3回：練習曲、バロックの楽曲①様式、時代背景</p> <p>第4回：練習曲、バロックの楽曲②形式、和声</p> <p>第5回：練習曲、バロックの楽曲③奏法、表現</p> <p>第6回：練習曲、バロックの楽曲④技術、表現の探求</p> <p>第7回：練習曲、バロックの楽曲⑤内容、奏法、表現の洗練</p> <p>第8回：練習曲、バロックの楽曲⑥仕上げとまとめ</p> <p>第9回：練習曲、古典派の楽曲①様式、時代背景</p> <p>第10回：練習曲、古典派の楽曲②形式、和声</p> <p>第11回：練習曲、古典派の楽曲③奏法、表現</p> <p>第12回：練習曲、古典派の楽曲④技術、表現の探求</p> <p>第13回：練習曲、古典派の楽曲⑤内容、奏法、表現の洗練</p> <p>第14回：練習曲、古典派の楽曲⑥構成の把握、総合的表現</p> <p>第15回：まとめと休業中の学習計画</p>			

定期試験
テキスト ショパン エチュード集（出版社は問わない）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： ピアノ実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 岡田敦子、野口誠司、安村真紀、吉田あかね、田中正也 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 練習方法を工夫できるようになる。</li> <li>2. 楽曲について説明できるようになる。</li> <li>3. 基礎を理解し表情豊かな演奏を工夫できるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>ピアノ演奏に必要な知識・技術・表現力・演奏力を身につける。前期を振り返り各自の課題を把握する。後期も引き続き、技術の獲得として学生の能力に合わせたショパンやモシュコフスキーなどの練習曲、バロック、古典派を中心に課題を出し、表現豊かな演奏するための技術を獲得させる。美しい音は、指の独立、タッチ、脱力などが必要である。それらを含みながら指導する。楽譜の分析は重要であり、作曲家のスタイルや時代背景などを探り、意見を交えながら行う。各自の課題を見つけさせ練習方法のアドバイスをを行い改善できるようにする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：指導教員と前期を振り返り学習計画を立てる</p> <p>第2回：練習してきた曲の確認、演奏能力の点検</p> <p>第3回：練習曲、課題曲①様式、時代背景</p> <p>第4回：練習曲、課題曲②形式、和声</p> <p>第5回：練習曲、課題曲③奏法、表現</p> <p>第6回：練習曲、課題曲④技術、表現の探求</p> <p>第7回：練習曲、課題曲⑤内容、奏法、表現の洗練</p> <p>第8回：練習曲、課題曲⑥仕上げとまとめ</p> <p>第9回：練習曲、課題曲①様式、時代背景</p> <p>第10回：練習曲、課題曲②形式、和声</p> <p>第11回：練習曲、課題曲③奏法、表現</p> <p>第12回：練習曲、課題曲④技術、表現の探求</p> <p>第13回：練習曲、課題曲⑤内容、奏法、表現の洗練</p> <p>第14回：練習曲、課題曲⑥構成の把握、総合的表現</p> <p>第15回：まとめと休業中の学習計画</p>			

定期試験
テキスト シヨパン エチュード集（出版社は問わない）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 電子オルガン実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：桑原哲章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子オルガンの基礎的な奏法を身につけ、演奏することができる。</li> <li>2. 楽曲の構成を理解することができる。</li> <li>3. 練習方法を自分で考え、計画的に進めることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>電子オルガン演奏に必要な基礎的なオルガン奏法を身につけると同時に、タッチトーンについても理解を深める。既成曲を題材にその楽曲の構造を分析し、メロディー、ハーモニー、リズムなど各部分を理解することにより、電子オルガンへの編曲方法について考察を行う。またレジストレーション（音色設定）についても確認をし、それぞれの音色の特徴や効果を理解していくことで、楽曲に相応しい音色の選び方を身につける。電子オルガンの特徴を活かし音楽としてまとめる力を養う。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：指導教員と学習計画を立てる</p> <p>第2回：これまで学修してきたレパトリーを確認し、 Semester中に学ぶ作品を選択する</p> <p>第3回：スケール・カデンツ Ⅱ Ⅲつまでの長調・短調 カデンツ1</p> <p>第4回：エチュード</p> <p>第5回：レッツ・プレイ・エレクトーン (LPE)</p> <p>第6回：既成曲（電子オルガン曲集より）</p> <p>第7回：スコアリーディング / 編曲分析</p> <p>第8回：電子オルガン奏法（弦楽器）</p> <p>第9回：レジストレーション研究（弦楽器）</p> <p>第10回：電子オルガン奏法（木管楽器）</p> <p>第11回：レジストレーション研究（木管楽器）</p> <p>第12回：電子オルガン奏法（金管楽器）</p> <p>第13回：レジストレーション研究（金管楽器）</p> <p>第14回：演奏会形式での発表</p> <p>第15回：まとめと休業中の学習計画</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

エレクトーン・スケール・カデンツ・ブック (ヤマハミュージックメディア)

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験 90%、受講態度 10%

授業科目名： 電子オルガン実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：桑原哲章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子オルガンの基礎的な奏法を身につけ、演奏することができる。</li> <li>2. 楽曲の構成を理解することができる。</li> <li>3. 練習方法を自分で考え、計画的に進めることができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>電子オルガン演奏に必要な基礎的なオルガン奏法を身につけると同時に、タッチトーンについても理解を深める。既成曲を題材にその楽曲の構造を分析し、メロディー、ハーモニー、リズムなど各部分を理解することにより、電子オルガンへの編曲方法について考察を行う。またレジストレーション（音色設定）についても確認をし、それぞれの音色の特徴や効果を理解していくことで、楽曲に相応しい音色の選び方を身につける。電子オルガンの特徴を活かし音楽としてまとめる力を養う。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：指導教員と学習計画を立てる			
第2回：スケール・カデンツ Ⅱ 4つ以降の長調・短調 カデンツ1			
第3回：エチュード			
第4回：レッツ・プレイ・エレクトーン（LPE）			
第5回：既成曲（電子オルガン曲集より）			
第6回：スコアリーディング / 編曲分析			
第7回：電子オルガン奏法（弦楽器）			
第8回：レジストレーション研究（弦楽器）			
第9回：電子オルガン奏法（木管楽器）			
第10回：レジストレーション研究（木管楽器）			
第11回：電子オルガン奏法（金管楽器）			
第12回：レジストレーション研究（金管楽器）			
第13回：電子オルガン奏法（ベース）			
第14回：演奏会形式での発表			
第15回：まとめと次年度に向けての学習計画			
定期試験			
テキスト			

エレクトーン・スケール・カデンツ・ブック（ヤマハミュージックメディア）。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験 90%、受講態度 10%

授業科目名： 副科ピアノ I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 野口誠司、田中正也、 藤村瑛亮
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 拍子や調性を説明できるようになる。</li> <li>2. 曲の表現方法を考えられるようになる。</li> <li>3. 表情豊かなピアノ演奏ができるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>ピアノコース以外の学生が履修できる。他の楽器を専攻している学生や初級者のためのレッスンを実施する。ピアノは和音など多声部を同時に演奏することができる。メロディーやハーモニー、リズム、バランスをどのように表現していくのかを学習する。ピアノ奏法の基本である音階を基礎練習とする。学生の能力に合わせ、練習曲や課題曲を用い15回レッスンを通し基礎を学ぶ。学生の演奏能力により難易度の高い曲を選択する場合もある。20分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は40時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：長音階・課題曲 基礎練習			
第3回：長音階・課題曲 指使い			
第4回：長音階・課題曲 練習方法			
第5回：長音階・課題曲 カデンツ			
第6回：長音階・課題曲 調性			
第7回：長音階・課題曲 打鍵			
第8回：長音階・課題曲 テンポ			
第9回：長音階・課題曲 バランス			
第10回：長音階・課題曲 作曲者の理解			
第11回：長音階・課題曲 技術			
第12回：長音階・課題曲 音色			
第13回：長音階・課題曲 表現			
第14回：長音階・課題曲 暗譜			
第15回：長音階・課題曲 まとめ			
定期試験			

テキスト

ハノンピアノ教本 全音楽譜出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 副科ピアノⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 野口誠司、田中正也、 藤村瑛亮 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 拍子や調性を説明できるようになる。 2. 曲の表現方法を考えられるようになる。 3. 表情豊かなピアノ演奏ができるようになる。			
授業の概要 ピアノコース以外の学生が履修できる。ピアノは和音など多声部を同時に演奏することができる。メロディーやハーモニー、リズム、バランスをどのように表現していくのかを学習する。前期の振り返り各自の課題を改善できるよう練習を重ねる。ピアノ奏法の基本である音階とアルペジオやハノンを基礎練習とする。学生の能力に合わせ、練習曲や課題曲を用い15回レッスンを通し基礎を学ぶ。学生の演奏能力により難易度の高い曲を選択する場合もある。20分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は40時間以上とする。			
授業計画 第1回：前期の学習計画の策定 第2回：歌唱のための発声について ①姿勢と呼吸 第3回：歌唱のための発声について ②共鳴 第4回：歌唱のための発声について ③呼吸の支えと歌声 第5回：歌唱のための発声について ④体のバランスと重心 第6回：歌唱のための基礎的な技術 ①正しい音程とリズム 第7回：歌唱のための基礎的な技術 ②強弱の表現 第8回：歌唱のための基礎的な技術 ③フレージング 第9回：歌唱のための基礎的な技術 ④曲想の表現 第10回：歌唱のためのイタリア語 ①基礎的な発音 第11回：歌唱のためのイタリア語 ②歌詞としての発音 第12回：歌唱のためのイタリア語 ③詩としての発音 第13回：音楽的な表現 ①基礎の総合 第14回：音楽的な表現 ②フレーズの表現 第15回：音楽的な表現 ③前期のまとめ 定期試験			

テキスト

ハノンピアノ教本 全音楽譜出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 弦楽器実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名： 澤和樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽曲の練習方法を工夫できるようになる。</li> <li>2. 弦楽器特有の美しい音色を表現を工夫できるようになる。</li> <li>3. 基礎練習を理解し、曲に活かせるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>各楽器の演奏に必要な知識・技術・表現力・演奏力を身につける。1年次では、技術の獲得として学生の能力に合わせた課題曲を選び、基本的な能力を修得させる。基礎的な演奏技術の向上として音階練習、分散和音、エチュードを用いる。また、バロック、古典派を中心に課題を出し、表現豊かな演奏するための技術の応用を研究する。美しく豊かな響を獲得するためのアドバイスを行う。楽譜の分析は重要であり、作曲家のスタイルや時代背景などを探り、意見を交えながら行う。各自の課題を見つけさせ練習方法のアドバイスを行い改善できるようにする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 授業概要を理解し指導教員と学習計画を立てる</p> <p>第2回：これまでの演奏してきたレパートリーの確認、演奏能力の点検、課題曲の選定</p> <p>第3回：基礎的な演奏技術の確認（音階練習・分散和音）</p> <p>第4回：基礎的な演奏技術と確認、練習曲への応用・練習方法</p> <p>第5回：基礎的な演奏技術と課題曲①様式、時代背景</p> <p>第6回：基礎的な演奏技術と課題曲②形式、モチーフ</p> <p>第7回：基礎的な演奏技術と課題曲③技術、奏法、表現</p> <p>第8回：基礎的な演奏技術と課題曲④技術、奏法、表現の探求</p> <p>第9回：基礎的な演奏技術と課題曲⑤技術、奏法、表現の洗練</p> <p>第10回：基礎的な演奏技術と課題曲⑥リズム、和声</p> <p>第11回：基礎的な演奏技術と課題曲⑦フレーズ、技術、表現の探求</p> <p>第12回：基礎的な演奏技術と課題曲⑧フレーズ、技術、表現の洗練</p> <p>第13回：基礎的な演奏技術と課題曲⑨構成、技術、奏法、表現のまとめ</p> <p>第14回：基礎的な演奏技術と課題曲⑩構成の把握、総合的表現</p> <p>第15回：まとめと休業中の学習計画</p>			

定期試験
テキスト 授業中に適宜紹介する。（受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 弦楽器実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 澤和樹
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽曲の練習方法を工夫できるようになる。</li> <li>2. 弦楽器特有の美しい音色を表現を工夫できるようになる。</li> <li>3. 基礎練習を理解し、曲に活かせるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>各楽器の演奏に必要な知識・技術・表現力・演奏力を身につける。前期を振り返り各自の課題を把握する。後期も引き続き、技術の獲得として学生の能力に合わせた課題曲を選び、基本的な能力を修得させる。基礎的な演奏技術の向上として音階練習、分散和音、エチュードを用いる。また、バロック、古典派を中心に課題を出し、表現豊かな演奏するための技術の研究を行う。美しく豊かな響を獲得するためのアドバイスをを行う。楽譜の分析は重要であり、作曲家のスタイルや時代背景などを探り、意見を交えながら行う。各自の課題を見つけさせ練習方法のアドバイスをを行い改善できるようにする。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：指導教員と前期を振り返り学習計画を立てる			
第2回：練習してきた楽曲の確認、演奏能力の点検、課題曲の選定			
第3回：練習してきた楽曲のまとめ			
第4回：基礎的な演奏技術と確認、練習曲への応用・練習方法			
第5回：基礎的な演奏技術と課題曲①様式、時代背景			
第6回：基礎的な演奏技術と課題曲②形式、モチーフ			
第7回：基礎的な演奏技術と課題曲③技術、奏法、表現			
第8回：基礎的な演奏技術と課題曲④技術、奏法、表現の探求			
第9回：基礎的な演奏技術と課題曲⑤技術、奏法、表現の洗練			
第10回：基礎的な演奏技術と課題曲⑥リズム、和声			
第11回：基礎的な演奏技術と課題曲⑦フレーズ、技術、表現の探求			
第12回：基礎的な演奏技術と課題曲⑧フレーズ、技術、表現の洗練			
第13回：基礎的な演奏技術と課題曲⑨構成、技術、奏法、表現のまとめ			
第14回：基礎的な演奏技術と課題曲⑩構成の把握、総合的表現			

第15回：まとめと休業中の学習計画

定期試験

テキスト

授業中に適宜紹介する。（受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 管打楽器実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名： 山澤洋之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>それぞれの専攻楽器の演奏法に関する基礎的な技術を理解する。</li> <li>与えられた楽曲またはエチュードに記された音楽的な内容を理解する。</li> <li>基本的な音楽表現について理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、管楽器演奏における基礎的技術の向上を図るため、各楽器の特有の基本演奏技術や楽曲理解を深める指導が行う。学生一人ひとりのレベルに合わせた個別指導形式で進められ、初級エチュードを用いて基礎奏法を確認しながら、比較的容易な楽曲や中程度の難易度を持つ独奏曲にも挑戦する。これにより、学生は演奏技術の基盤を強化すると同時に、音楽的な表現力や解釈力を養い、より高度な演奏技術へと進展させることをめざしている。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：半期レッスン計画の策定。現在の能力の確認</p> <p>第2回：基礎（1） 専攻楽器演奏法の基礎の確認</p> <p>第3回：基礎（2） 基礎力の向上</p> <p>第4回：基礎（3） 応用練習の実践</p> <p>第5回：基礎（4） デイリートレーニングの確認</p> <p>第6回：エチュード（1） 基礎的なエチュードを取り入れる</p> <p>第7回：エチュード（2） 基礎的なエチュードを用いた練習法の実践</p> <p>第8回：エチュード（3） 基礎的なエチュードを用いた音楽的なアプローチ</p> <p>第9回：エチュード（4） 基礎的なエチュードの総仕上げを行う</p> <p>第10回：基礎楽曲（1） 実技試験に向けた基礎的な楽曲の譜読み</p> <p>第11回：基礎楽曲（2） 実技試験に向けた基礎的な楽曲の演奏法の確認</p> <p>第12回：基礎楽曲（3） 実技試験に向けた基礎的な楽曲の音楽的なアプローチ</p> <p>第13回：基礎楽曲（4） 実技試験に向けた基礎的な楽曲のアナリゼ</p> <p>第14回：基礎楽曲（5） 実技試験に向けた基礎的な楽曲の総まとめ</p> <p>第15回：基礎楽曲のまとめ。学修の振り返り</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

授業中に適宜紹介する。（受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 管打楽器実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 山澤洋之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>それぞれの専攻楽器の演奏法に関する基礎的な技術を修得する。</li> <li>与えられた楽曲またはエチュードに記された音楽的な内容を修得する。</li> <li>基本的な音楽表現について理解し実践できる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本科目は、「管打楽器実技I」に引き続き、管打楽器演奏における基礎的な技術の向上をめざして指導を行う。授業では、各楽器特有の基本的な演奏技術を修得しながら、楽曲の理解を深め、さらに美しく豊かな響きを獲得することを目的とする。学生一人ひとりのレベルに応じた個別指導を行い、基礎技術の確認を行いながら、演習曲と独奏曲を並行して学習していく。これにより、基礎力を強化し、演奏技術や表現力をより一層高めることをめざす。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習(予習・復習)の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：第1 Semesterを経た能力を基にした半期レッスン計画の策定			
第2回：基礎(1) 専攻楽器演奏法の基礎の修得			
第3回：基礎(2) 基礎力のさらなる向上			
第4回：基礎(3) 応用練習の反復			
第5回：基礎(4) 基礎練習の総確認および実践			
第6回：エチュード(5) より高度な基礎的なエチュードを取り入れる			
第7回：エチュード(6) より高度な基礎的なエチュードを用いた練習法の実践			
第8回：エチュード(7) より高度な基礎的なエチュードを用いた音楽的なアプローチ			
第9回：エチュード(8) より高度な基礎的なエチュードの総仕上げを行う			
第10回：基礎楽曲(6) 実技試験に向けた漸進的な楽曲の譜読み			
第11回：基礎楽曲(7) 実技試験に向けた漸進的な楽曲の演奏法の確認			
第12回：基礎楽曲(8) 実技試験に向けた漸進的な楽曲の音楽的なアプローチ			
第13回：基礎楽曲(9) 実技試験に向けた漸進的な楽曲のアナリゼ			
第14回：基礎楽曲(10) 実技試験に向けた漸進的な楽曲の総まとめ			
第15回：漸進的な基礎楽曲のまとめ。学修の振り返り			
定期試験			
テキスト			

授業中に適宜紹介する。（受講生の技能水準等を考慮してテキストを指定する）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

実技試験90%、受講態度10%

授業科目名： 伴奏法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口誠司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 声楽家の呼吸を理解できるようになる。</li> <li>2. 詩とメロディーの関係を理解することができるようになる。</li> <li>3. パートナーとして伴奏できるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>声楽作品のピアノ伴奏法の基本を学ぶ。日本語による歌曲とドイツ語フランス語などさまざまな言語の歌曲、オペラ作品を取り上げ、授業計画に沿って課題を決めレッスン形式のクラス授業により指導を行う。楽譜の総合的に読み取り、ピアノパートだけでなく歌詞や呼吸への意識、相手パートへのアプローチの仕方や言葉と音楽の結びつき、詩やその背景にある文学・歴史に対する知識を身につける。授業計画は受講生の習熟度に応じて変更する場合がある。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンスー選曲と授業計画、課題に対する事前準備の方法の説明			
第2回：滝廉太郎、中田喜直、山田耕筰、團伊玖磨の歌曲 1			
第3回：滝廉太郎、中田喜直、山田耕筰、團伊玖磨の歌曲 2			
第4回：滝廉太郎、中田喜直、山田耕筰、團伊玖磨の歌曲 3			
第5回：滝廉太郎、中田喜直、山田耕筰、團伊玖磨の歌曲 4			
第6回：まとめと発表、後半の授業計画			
第7回：イタリア歌曲 1			
第8回：イタリア歌曲 2			
第9回：シューベルト歌曲			
第10回：シューマン歌曲			
第11回：ブラームス歌曲			
第12回：フォーレ、ドビュッシー歌曲			
第13回：オペラ作品 1			
第14回：オペラ作品 2			
第15回：前期のまとめと発表			
定期試験			
テキスト			
日本歌曲集 1 全音楽譜出版社			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート50%、課題40%、受講態度10%

授業科目名： ピアノ伴奏法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口誠司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 中学、高校などの教育現場で必要な伴奏を演奏することができる。</p> <p>2. 学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけ探求することができる。</p> <p>3. 豊かな音楽表現に必要な伴奏の重要性について理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>ピアノコース以外の学生が履修可。教員免許に必要なピアノ伴奏の基礎技術(ブレス・フレージング・和音・バランス・テンポ)と知識を身につける。中学校合唱曲を用いクラス授業で実施する。作曲家の生い立ちや歌詞の内容を調べ、練習した成果を発表する。個人の演奏に対し個別に指導を行うことにより伴奏技術を獲得させる。その他、コードネームによる楽譜を使用し、コードネームの基礎知識、メロディーに伴奏を付ける技術も身につける。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：伴奏におけるハーモニーの基礎を修得する			
第3回：伴奏形の特徴について理解する(アルペジオの伴奏・旋律的伴奏・リズム的伴奏)			
第4回：歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を引き出す伴奏について考察する			
第5回：中等科音楽の教材①伴奏の実践基本			
第6回：中等科音楽の教材①伴奏の実践応用			
第7回：中等科音楽の教材①伴奏の実践発展			
第8回：発表とディスカッション			
第9回：コードネームの読み方			
第10回：コード譜演奏①基礎			
第11回：コード譜演奏②応用			
第12回：コード譜演奏③まとめ			
第13回：発表とディスカッション			
第14回：豊かな音楽表現のための伴奏について考察する			
第15回：発表とまとめ			
定期試験			
テキスト			
中学生の音楽1 中学生の音楽2.3上 中学生の音楽2.3下			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート50%、課題40%、受講態度10%

授業科目名：合奏	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：野口誠司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. アンサンブル（合奏）に必要な事を理解できるようになる。</p> <p>2. パート奏者として責任ある研究・練習により、全員で仕上げる方法を身につけることができるようになる。</p> <p>3. 身につけた内容や演奏力を指導者として活用できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>教員免許取得のために必要なアンサンブル力を身につける。合奏はコミュニケーションが重要である。ピアノ連弾から開始し、グループで器楽合奏を行う。自分の意見をどのように話すと相手に伝わるのか、より良い音楽を作っていくためには何が必要かを学ぶ。各パートのあり方および総体的な音楽表現を理解する。グループごとに発表演奏を行い、演奏についてディスカッションを行う。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションと曲決め			
第2回：ピアノアンサンブル1 練習			
第3回：ピアノアンサンブル2 技術			
第4回：リコーダー基礎技術			
第5回：リコーダー2重奏練習			
第6回：リコーダー2重奏発表			
第7回：リコーダーアンサンブル1			
第8回：リコーダーアンサンブル2			
第9回：リコーダーアンサンブル3 発表			
第10回：指揮者について			
第11回：移調楽器について			
第12回：合奏練習と発表とディスカッション1			
第13回：合奏練習と発表とディスカッション2			
第14回：合奏練習と発表とディスカッション3			
第15回：まとめ			
定期試験 レポート			
テキスト 授業中に適宜紹介する。授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 中学校音楽、高等学校の音楽の教科書。			

学生に対する評価 レポート40%、課題50%、受講態度10%

授業科目名： 日本伝統音楽演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河原抄子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の伝統楽器である箏の奏法と歴史的背景について理解できるようになる。</li> <li>2.日本の伝統的歌唱と歴史的背景について理解できるようになる。</li> <li>3.日本の伝統的音楽の拍子、奏法、記譜法について理解し基礎的な演奏ができるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>日本の伝統音楽における箏と伝統的歌唱について、その歴史的背景と楽器の構造及び基礎的な奏法、伝統音楽における声や記譜法について知識と技能の修得を目的とする。楽器取り扱い、名称と調絃などの楽器の基礎知識、箏の記譜法と実践として、練習曲さくら・平調子・乃木調子、六段の調などや、三味線の構造と奏法について演習を行う。また、七つの子を題材にしたアレンジ、楽譜製作と実習、邦楽における唱歌の基礎的な知識、地歌箏曲、箏組歌、段物について演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー楽器取り扱い、名称と調絃、楽器の基礎知識、邦楽における唱歌</p> <p>第2回：右手奏法、記譜法と実践</p> <p>第3回：右手奏法、記譜法と実践、応用</p> <p>第4回：左手奏法、記譜法と実践、応用</p> <p>第5回：練習曲（さくら・平調子）による合奏練習と乃木調子について</p> <p>第6回：練習曲（乃木調子）数曲を初見演奏</p> <p>第7回：六段の調①基礎的演奏法の復習</p> <p>第8回：六段の調②奏法の確認</p> <p>第9回：六段の調③音や余韻への注視</p> <p>第10回：三味線の構造</p> <p>第11回：三味線の音程の作り方</p> <p>第12回：三味線の練習曲による実習</p> <p>第13回：地歌箏曲</p> <p>第14回：箏組歌</p> <p>第15回：段物</p>			
テキスト 五線譜によるおこと入門 大日本家庭音楽出版			

参考書・参考資料等 適宜、資料を配付する。

学生に対する評価

課題10% 実技20% 受講状況70%

授業科目名： 指揮法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今釜 亮 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 指揮法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指揮法の基本原理を理解し、楽曲の指揮に応用できるようになる。</li> <li>2. 楽曲を分析し、相応しいテンポ・リズム・アクセントを明らかにできるようになる。</li> <li>3. 最適と思われる指揮技法を判断し用いることができるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>指揮法は基本原理を理解し楽曲の指揮に応用できなければならない。指揮によるアンサンブルの統率を行うためには、楽曲を分析し、曲にふさわしいテンポやリズム・アクセント・イントネーションを明らかにすることが重要である。指揮法Iでは、指揮者の役割を理解し、実際に指揮棒を使用し、「叩き」や「しゃくい」、「平均運動」、「跳ね上げ」などの基本テクニックを身に付ける。また、腕の脱力と体のコントロールも同時に身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスと指揮法の基本</p> <p>第2回：叩きについて</p> <p>第3回：平均運動について</p> <p>第4回：しゃくいについて</p> <p>第5回：はねあげについて</p> <p>第6回：先入れについて</p> <p>第7回：段の統合について</p> <p>第8回：移調楽器の理解1</p> <p>第9回：移調楽器の理解2</p> <p>第10回：声楽の理解</p> <p>第11回：旋律と伴奏について</p> <p>第12回：ピアノスコア作成1</p> <p>第13回：ピアノスコア作成2</p> <p>第14回：総合練習</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験 実技試験</p>			
テキスト 授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 「指揮法教程」 斎藤秀雄著（音楽之友社）			

学生に対する評価 実技40%、課題50%、受講態度10%

授業科目名： 指揮法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今釜 亮 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 指揮法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指揮法の基本原理を発展させ、楽曲の指揮ができるようになる。</li> <li>2. 楽曲を分析し、相応しいテンポ・リズム・アクセントを表現できるようになる。</li> <li>3. 最適と思われる指揮技法を判断し、わかりやすい指揮ができるようになる。</li> </ol>			
<p>指揮法Ⅱでは、指揮法Ⅰで身に付けた技術を復習し楽曲に応用する。楽譜はピアノ曲や吹奏楽曲、オーケストラスコア、合唱曲を使用する。楽曲分析を行い最適と思われるテンポやリズム・アクセント・イントネーションを明らかにし、指揮技法を判断し用いる。合唱では歌詞が付いており吹奏楽やオーケストラと表現方法が異なるため、その違いも研究する。体を使用し、右手の表情、左手の効果、顔や目の表情も加え表情豊かな指揮ができるよう実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスと指揮法の復習</p> <p>第2回：デュナーミク1 フォルテ</p> <p>第3回：デュナーミク2 ピアノ</p> <p>第4回：デュナーミク3 クレッシェンド</p> <p>第5回：デュナーミク4 ディミヌエンド</p> <p>第6回：アゴーギグ1 アッチェレランド</p> <p>第7回：アゴーギグ2 リタルダント</p> <p>第8回：デュナーミクとアゴーギグの複合</p> <p>第9回：表情1 レガート</p> <p>第10回：表情2 テヌート</p> <p>第11回：表情3 スタッカート</p> <p>第12回：表情4 アクセント</p> <p>第13回：表情5 様々な表情の複合1</p> <p>第14回：総合練習</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験 実技試験</p>			
テキスト 授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 「指揮法教程」斎藤秀雄著（音楽之友社）			
学生に対する評価 実技40%、課題50%、受講態度10%			

授業科目名： 和声 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上幸一、三村麿紀予 担当形態： クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋音楽における4声体書法による和声の基礎を理解することができる。</li> <li>2. 基本位置3和音の配置と連結について理解することができる。</li> <li>3. 3和音の第1転回位置を含むバス課題が適切に実施できるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「和声I」では、西洋音楽の根底に存在する流れを和声学から捉え、音楽理論の理解と4声体書法による実施を通じてその感性と論理性を修得することを目的とする。予備知識として声部の名称と声域、二声部間の距離、上三声の配置、進行に関する用語、同時進行に関する禁則、標準連結、II→Vの連結、V→VIの連結、和音設定の原理、各種の調、I、IV、Vの第1転回位置、IIの第1転回位置、和音の選択について学習を行い、基礎的な和音連結のバス課題を実施する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンスー和声法の予備知識、基礎的音楽理論(音程・音階・調・和音)			
第3回：基本位置3和音の配置②上3声の標準配置			
第4回：基本位置3和音の連結①2音の関係、進行に関する制限、同時進行に関する禁則			
第5回：基本位置3和音の連結②上3声の標準連結			
第6回：基本位置3和音の連結③II→V			
第7回：基本位置3和音の連結④V→VI			
第8回：和音設定の原理 3種の和音機能、カデンツの3種の型、カデンツの結合、終止			
第9回：各種の調 旋法と主音、主音の移動、旋法の変換			
第10回：3和音の第1転回位置①I.IV.Vの第1転回位置の標準配置			
第11回：3和音の第1転回位置②I.IV.Vの第1転回位置を含む標準連結			
第12回：〔1転〕3和音を含むカデンツ			
第13回：〔1転〕3和音を含むバス課題の実施法(和音選択)			
第14回：〔1転〕3和音を含むバス課題			
第15回：総括ーバス課題実施内容の確認とまとめ			
定期試験			

テキスト

「和声 理論と実習I」 島岡譲 音楽之友社

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験60%、課題20%、実技20%

授業科目名： 和声Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上幸一、三村麿紀予 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法(編曲法を含む。) ・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋音楽における4声体書法に和声の理論を理解できる。</li> <li>2. 3和音の第2転回位置の配置と連結について理解できる。</li> <li>3. 属七の和音含むバス課題が適切に実施できるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>「和声Ⅱ」では、「和声Ⅰ」で修得した和声学の基礎及び音楽理論の知識をもとに、音楽理論の応用として西洋音楽の4声体書法によるバス課題の実施を通して感性と論理性を修得することを目的とする。Ⅴの第2転回位置、Ⅳの第2転回位置、Ⅰの第2転回位置および第2転回位置を含むバス課題、属七の和音・上三声の配置、属七→Ⅰの連結、属七の第2転回位置→Ⅰの第1転回位置の連結、先行和音→属七の和音の連結、属七の和音を含むバス課題、属七→Ⅵの連結、先行和音→属七の和音(上部構成音b)の連結、属七→Ⅵの連結を含むバス課題、属七の根音省略形体を含むバス課題を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー3和音の第1転回位置の復習</p> <p>第2回：3和音の第2転回位置①〔2転〕3和音の標準配置、定型</p> <p>第3回：3和音の第2転回位置②〔2転〕3和音を含む標準連結</p> <p>第4回：3和音の第2転回位置③〔2転〕3和音を含むバス課題</p> <p>第5回：属七の和音①配置、限定進行音</p> <p>第6回：属七の和音②Ⅰの和音との連結</p> <p>第7回：属七の和音③先行和音との連結</p> <p>第8回：属七を含むバス課題の実施法</p> <p>第9回：属七→Ⅵの連結</p> <p>第10回：属七→Ⅵの連結を含むバス課題の実施法</p> <p>第11回：属七の和音の根音省略形体</p> <p>第12回：属七の和音の根音省略形体の配置と連結</p> <p>第13回：属七の和音の根音省略形体を含むバス課題の実施法</p> <p>第14回：属七の和音のバス課題</p>			

第15回：総括—各バス課題の実施内容の確認とまとめ

定期試験

テキスト

「和声 理論と実習I」 島岡譲 音楽之友社

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験60%、課題20%、実技20%

授業科目名： 楽曲制作実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：丹羽菜月 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピアノの特性について理解する。</li> <li>2. ピアノ作品の書法を習得する。</li> <li>3. ピアノ独奏作品を創作することができるようにする。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>楽曲制作者、作曲家として活動できる能力と個性を育成することを目的とし、習熟度に合わせて個人レッスン形式で指導を行なう。作曲を行うにあたっては、既存の二重奏曲または三重奏曲（器楽）を参考として楽曲分析から始め、調性機能、和声法、楽器法、演奏効果、楽曲構成法、編成の特色などについて学習する。その後、それまでの知識を活かし、任意の楽器による二重奏曲または三重奏曲（器楽）の創作を行い、作品解説と共に提出する。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：ピアノ作品の楽器法についての研究			
第3回：ピアノ作品の実例についての研究①全体構成			
第4回：ピアノ作品の実例についての研究②和声分析			
第5回：ピアノ作品の技法についての研究			
第6回：ピアノ作品の書法についての研究			
第7回：ピアノ作品の楽曲構造、演奏効果についての研究			
第8回：提出作品の構想（音高システム、楽曲構造等）			
第9回：ピアノ独奏作品の作曲 ①経過報告と指導			
第10回：ピアノ独奏作品の作曲 ②経過報告と指導			
第11回：ピアノ独奏作品の作曲 ③経過報告と指導			
第12回：ピアノ独奏作品の作曲 ④経過報告と指導			
第13回：ピアノ独奏作品の作曲 ⑤経過報告と指導			
第14回：楽譜の最終確認、作品解説の書き方について			
第15回：前期のまとめ、提出作品に関する講評、夏期課題の提示			
定期試験			
テキスト			

教員が必要に応じて、参考にすべき楽譜や資料等を提示する。

参考書・参考資料等

浦田健次郎（編著） 1990 『新総合音楽講座4「楽式」』 一般財団 法人ヤマハ音楽振興会

学生に対する評価

実技90%、受講態度10%

授業科目名： 楽曲制作実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：丹羽菜月 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管打楽器・弦楽器の特性について理解する。</li> <li>2. 二重奏または三重奏作品の編成の特色を掴む。</li> <li>3. 二重奏または三重奏作品の書法を習得する。</li> <li>4. 二重奏または三重奏作品を創作することができるようにする。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>楽曲制作者、作曲家として活動できる能力と個性を育成することを目的とし、習熟度に合わせて個人レッスン形式で指導を行なう。作曲を行うにあたっては、既存の二重奏曲または三重奏曲（器楽）を参考として楽曲分析から始め、調性機能、和声法、楽器法、演奏効果、楽曲構成法、編成の特色などについて学習する。その後、それまでの知識を活かし、任意の楽器による二重奏曲または三重奏曲（器楽）の創作を行い、作品解説と共に提出する。60分15回のレッスン科目として開講し、準備学習（予習・復習）の総時間は165時間以上とする。</p>			
授業計画			
第1回：夏期課題の確認、ガイダンス（二重奏または三重奏作品）			
第2回：楽器法の研究①管打楽器			
第3回：楽器法の研究①弦楽器			
第4回：二重奏もしくは三重奏作品の実例についての研究			
第5回：二重奏、三重奏作品の技法、書法についての研究			
第6回：二重奏、三重奏作品の楽曲構造、演奏効果についての研究			
第7回：提出作品の準備、楽器編成の決定			
第8回：提出作品の構想（音高システム、楽曲構造等）			
第9回：二重奏もしくは三重奏作品の作曲 ①経過報告と指導			
第10回：二重奏もしくは三重奏作品の作曲 ②経過報告と指導			
第11回：二重奏もしくは三重奏作品の作曲 ③経過報告と指導			
第12回：二重奏もしくは三重奏作品の作曲 ④経過報告と指導			
第13回：二重奏もしくは三重奏作品の作曲 ⑤経過報告と指導			
第14回：楽譜の最終確認			
第15回：後期のまとめ、提出作品に関する講評、春期課題の提示			
定期試験			

テキスト

教員が必要に応じて、参考にするべき楽譜や資料等を提示する。

参考書・参考資料等

浦田健次郎（編著） 1990 『新総合音楽講座4「楽式」』 一般財団 法人ヤマハ音楽振興会

学生に対する評価

実技90%、受講態度10%

授業科目名： 西洋音楽史 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：李恵平 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽 及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代からバロック期までの西洋音楽の歴史の全体像を把握する。</li> <li>2. 音楽史における基礎概念を修得する。</li> <li>3. 西洋音楽史の流れの中で、各作曲家およびその作品の位置づけを理解する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>この科目は、音楽学部の全学生を対象に、古代からバロック期に至るまでの西洋音楽の歴史を体系的に通観するものである。講義形式によるこの授業では、各時代を代表する作曲家およびその作品を概ね年代順に取り上げるが、単に作曲技法や音楽形式の分析にとどまらず、それぞれの作品が生まれた社会的・文化的背景、音楽思想、または音楽が果たした社会的役割についても考察を加える。さらに、音楽史学の基礎概念や研究手法を紹介し、各時代の音楽史研究の現状を紹介することで、受講者が音楽史に対する基礎的な考え方を確立することをめざす。</p>			
授業計画			
第1回：総説：音楽史学の基礎概念と研究手法			
第2回：音楽の起源、古代ギリシャとローマの音楽			
第3回：中世における聖歌			
第4回：中世における世俗音楽			
第5回：多声音楽の始まり			
第6回：14世紀のフランスとイタリア音楽			
第7回：ルネサンス期の音楽（1）：総説、15世紀の音楽			
第8回：ルネサンス期の音楽（2）：16世紀の音楽			
第9回：ルネサンス期の音楽（3）：世俗音楽			
第10回：ルネサンス期の音楽（4）：宗教改革と器楽の隆盛			
第11回：バロック期の音楽（1）：バロック音楽総説			
第12回：バロック期の音楽（2）：オペラ			
第13回：バロック期の音楽（3）：宗教音楽			
第14回：バロック期の音楽（4）：ヨーロッパ各地の発展			
第15回：総括			
定期試験			
テキスト			

U. ミヒエルス編『図解音楽事典』（白水社）

参考書・参考資料等

グラウト／パリスカ『新西洋音楽史』上中下（音楽之友社）；コリッソン『西洋音楽史大図鑑』（ヤマハ）

学生に対する評価

筆記試験70%、受講態度30%

授業科目名： 西洋音楽史 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：李惠平 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古典派から20世紀までの西洋音楽の歴史の全体像を把握する。</li> <li>2. 音楽史における基礎概念を修得する。</li> <li>3. 西洋音楽史の流れの中で個々の作曲家およびその作品の位置づけを理解する。</li> <li>4. 「音楽的カノン」の形成に対する批判的理解を養う。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>西洋音楽史1に続き、古典派、ロマン派、そして20世紀の西洋音楽史を概観するものである。</p> <p>「西洋音楽史1」と同様に、各時代を代表する主要作曲家の作曲技法やその作品の音楽様式の変遷を考察するだけでなく、それらの作品が生まれた社会的・文化的背景との関係性をも重視する。特に「音楽的カノン（典範）」が形成されたプロセスに対する理解を深めることが、この科目の重要な目標の一つである。また、20世紀以降は西洋音楽が世界的に普及した時期であり、この時期の西洋音楽に関する知識は、作曲技法の伝播や洋楽受容を考える上で不可欠である。授業の後半では、20世紀初頭、戦間期、そして戦後から20世紀末までの三つの時期に分けて、20世紀の西洋音楽におけるモダニズムの系譜を辿りながら解説する。</p>			
授業計画			
第1回：総説：前期のおさらいと後期の概要			
第2回：古典派の音楽（1）：啓蒙主義と音楽、初期古典派の音楽			
第3回：古典派の音楽（2）：オペラと声楽			
第4回：古典派の音楽（3）：器楽			
第5回：古典派の音楽（4）：ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン			
第6回：ロマン派の音楽（1）：ロマン主義世代の誕生			
第7回：ロマン派の音楽（2）：オペラと声楽			
第8回：ロマン派の音楽（3）：独奏曲、室内曲、管弦楽曲			
第9回：ロマン派の音楽（4）：世紀末の音楽			
第10回：20世紀初頭の音楽：モダニズムの台頭			
第11回：戦間期の音楽（1）：新古典主義			
第12回：戦間期の音楽（2）：藝術音楽と大衆音楽との交差			
第13回：戦後から20世紀まで（1）：ヨーロッパの新音楽			
第14回：戦後から20世紀まで（2）：新大陸および東アジアの新音楽			

第15回：総括

定期試験

テキスト

U. ミヒエルス編『図解音楽事典』（白水社）

参考書・参考資料等

グラウト／パリスカ『新西洋音楽史』上中下（音楽之友社）；コリッソン『西洋音楽史大図鑑』（ヤマハ）

学生に対する評価

筆記試験70%、受講態度30%

授業科目名： 日本音楽概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永井美由紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における在来音楽の主要な音楽的・文化的特徴を把握する。</li> <li>2. 日本列島で実践されてきた伝統音楽文化の歴史的流れを理解する。</li> <li>3. 日本音楽に関する文献および視聴覚材料を収集し、分析および鑑賞する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>日本における在来音楽文化の特徴とその変遷の歴史を理解する。日本列島において古代から現代に至るまで実践されてきた伝統音楽文化の成立と展開を軸に、ジャンルごとにそれぞれの歴史や音楽様式の変遷を概観し、これらの音楽が舞踊や演劇などの芸能、文学との関係にも触れながら考察を加える。雅楽、声明、琵琶楽、能楽、三曲、文楽、長唄、浄瑠璃といった主要ジャンルを紹介するほか、各地で伝承される民俗芸能や民謡、さらには現代以降の日本音楽が遂げた変容についても解説する。</p>			
授業計画			
第1回：導入：日本音楽の定義と関係資料の紹介			
第2回：日本音楽史概説（1）：古代、中世			
第3回：日本音楽史概説（2）：近世			
第4回：日本音楽史概説（3）：近代			
第5回：日本音楽史概説（4）：現代			
第6回：雅楽			
第7回：声明			
第8回：琵琶楽			
第9回：能楽			
第10回：三曲（1）：箏曲、三味線音楽			
第11回：三曲（2）：尺八楽			
第12回：歌舞伎、長唄			
第13回：浄瑠璃			
第14回：日本の民謡と民俗芸能			
第15回：総括			
定期試験			
テキスト			

田中健次『図解日本音楽史増補改訂版』（東京堂）

参考書・参考資料等

徳丸吉彦『ものがたり日本音楽史』（岩波書店）；月溪恒子『日本音楽との出会い—日本音楽の歴史と理論—』（東京堂）

学生に対する評価

期末試験（40%）、受講態度（30%）、レポート提出（30%）

授業科目名： 世界音楽概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：李恵平 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界中の音楽文化に関する基礎知識を修得する。</li> <li>2. 民族音楽学の基礎概念と研究手法を把握する。</li> <li>3. 世界中の音楽伝統に触れることで、世界各地の音楽文化を立体的かつ相対的な視点を養う。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>「世界音楽」という用語は、定義上、世界中のすべての音楽を指すものであるが、本授業では進行上の便宜と、民族音楽学への導入という側面をも兼ねるため、主に従来の西洋芸術音楽およびその音楽語法にルーツを持たない世界各地の独自の音楽伝統を紹介する。南極を除く五大陸におけるさまざまな音楽伝統を順次取り上げるが、特に日本に地理的に近い東アジアや東南アジアといった地域における主要な音楽伝統を重点的に扱う。世界各地の音楽文化を立体的かつ相対的に理解することと、受講者に民族音楽学への関心を促すことが、本この科目の主要な目標である。</p>			
授業計画			
第1回：導入：世界音楽の定義と範疇、民族音楽学概説			
第2回：アフリカの音楽文化			
第3回：ヨーロッパの音楽文化			
第4回：西アジア・中央アジアの音楽文化			
第5回：南アジアの音楽文化（1）：ヒンドゥスターニー音楽（北インド）			
第6回：南アジアの音楽文化（2）：カルナータカ音楽（南インド）			
第7回：東南アジアの音楽文化（1）：大陸部			
第8回：東南アジアの音楽文化（2）：島嶼部			
第9回：東アジアの音楽文化（1）：漢民族の伝統音楽			
第10回：東アジアの音楽文化（2）：漢民族音楽文化の現在			
第11回：東アジアの音楽文化（3）：朝鮮半島の音楽			
第12回：東アジアの音楽文化（4）：少数民族の音楽文化			
第13回：オセアニアの音楽文化			
第14回：アメリカの音楽文化			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 柘植元一、塚田健一『はじめての世界音楽：諸民族の伝統音楽からポップスまで』（音楽之友社）
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 期末試験（40％）、受講態度（30％）、レポート提出（30％）

授業科目名： 作曲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上幸一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽 及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作曲の原理を理解することができる。</li> <li>2. 理論に基づいて作品を創作することができる。</li> <li>3. 創作した作品を演奏することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>作曲の原理、主要要素であるリズム・響き・旋律などのアプローチによって、創作の基本となる知識と技能の修得を目的とする。また、作品を実際に演奏する経験を得るため、成果発表として創作した作品の発表を行う。動機と主題、楽式と構造、和声音と非和声音、ハーモナイズとリハーモナイズ、伴奏付け、旋律と対旋律についての演習を通して、作品を創作するとともに、編曲法や作品のイメージの捉え方、イメージをかたちにするプロセスについて演習を通して学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンスー授業内容および計画			
第2回：動機と主題①基礎			
第3回：動機と主題②応用			
第4回：楽式①2部形式、3部形式			
第5回：楽式②複合3部形式、ロンド形式、ソナタ形式			
第6回：和声音と非和声音①経過音、刺しゅう音			
第7回：和声音と非和声音②倚音と掛留音、逸音と先取音			
第8回：ハーモナイズとリハーモナイズ①基礎			
第9回：ハーモナイズとリハーモナイズ②応用			
第10回：伴奏付けと対旋律①基礎			
第11回：伴奏付けと対旋律②応用			
第12回：編曲①基礎			
第13回：編曲②応用			
第14回：課題発表			
第15回：総括とフィードバック			
定期試験			
テキスト			

適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

「和声のしくみ・楽曲のしくみ」島岡譲 音楽之友社、この他、適宜、資料を配付する。

学生に対する評価

課題60%、実技40%

授業科目名： 音楽科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上幸一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽を学ぶことの意義を理解できるようになる。</li> <li>2. 学習指導要領「音楽」における「音楽科の目標」「指導事項」「指導上の配慮事項」を理解できるようになる。</li> <li>3. 表現：歌唱・器楽・創作、鑑賞の指導法を理解できるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校、高等学校の音楽科教員に必要とされる基礎的な知識と技能を身につけることを目的として、講義および演習を行う。学習指導要領「音楽」の内容をもとに音楽科教育の意義と必要性を理解し、各指導事項及び指導上の配慮事項の知識を修得するとともに、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の基礎的な指導法を学び、〔共通事項〕との関連についての知識を修得する。表現及び鑑賞の指導法については、歌唱共通教材や楽器、鑑賞教材（ICT活用を含む）を用いた演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー音楽科教育の意義と必要性</p> <p>第2回：中学校・高等学校学習指導要領「音楽」</p> <p>第3回：音楽科の目標（教科、学年）</p> <p>第4回：音楽科の内容（構成、各領域および〔共通事項〕）</p> <p>第5回：【表現：歌唱】の指導内容と指導上の配慮事項</p> <p>第6回：歌唱の演習「夏の思い出」、発声練習の工夫、音程を取る方法の理解</p> <p>第7回：【表現：器楽】の指導内容と指導上の配慮事項</p> <p>第8回：器楽の演習、奏法の指導法の工夫と理解</p> <p>第9回：【表現：創作】の指導内容と指導上の配慮事項</p> <p>第10回：リズム創作及び旋律創作の演習（ICT活用を含む）、読譜指導の方法の理解</p> <p>第11回：【鑑賞】の指導内容と指導上の配慮事項</p> <p>第12回：鑑賞の演習「四季」（ICT活用を含む）、鑑賞の指導法の工夫と理解</p> <p>第13回：鑑賞の演習「魔王」（ICT活用を含む）、鑑賞の指導法の工夫と理解</p> <p>第14回：〔共通事項〕の指導内容の理解（表現および鑑賞との関連）</p> <p>第15回：総括ー指導内容および指導法の理解度の確認</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

改訂版 最新 中等科音楽教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中学校・高等学校教員養成課程用 中等科音楽教育研究会 編 音楽之友社。中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示）・高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年告示）。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験80%、課題20%

授業科目名： 音楽科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上幸一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>適切な学習指導案およびワークシートを作成できるようになる。</li> <li>教師としてふさわしい話し方や指示、立ち居振る舞いなど基本的なことができるようになる。</li> <li>模擬授業の良い点や改善すべき点を明確にするとともに、改善指導案による実践にそくした模擬授業(ICT機器の活用を含む)を実施することができるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>「音楽科指導法Ⅱ」は、「音楽科指導法Ⅰ」において修得した知識と技能をもとに教材研究、学習指導案の作成、ワークシートの作成を行い、表現および鑑賞の模擬授業を実施する。模擬授業においては、歌唱、器楽、創作と鑑賞による模擬授業を実施するとともに、グループワークによって模擬授業における課題を検討し、「音楽科指導法Ⅰ.Ⅱ」の総括として、改善指導案による模擬授業を実施する。また、創作および鑑賞の模擬授業においてはICT機器の活用含む内容とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイドダンスー模擬授業に向けた指導</p> <p>第2回：模擬授業に向けた事前指導と演習①【表現：歌唱】</p> <p>第3回：模擬授業に向けた事前指導と演習②【表現：器楽】</p> <p>第4回：模擬授業に向けた事前指導と演習③【表現：創作】(ICT活用を含む)</p> <p>第5回：模擬授業に向けた事前指導と演習④【鑑賞】西洋音楽 (ICT活用を含む)</p> <p>第6回：模擬授業に向けた事前指導と演習⑤【鑑賞】日本伝統音楽 (ICT活用を含む)</p> <p>第7回：指導案作成①目標および題材設定の理由</p> <p>第8回：指導案作成②指導計画と評価基準</p> <p>第9回：指導案作成③本時の展開とワークシート</p> <p>第10回：模擬授業および指導①【表現：歌唱】</p> <p>第11回：模擬授業および指導②【表現：器楽】</p> <p>第12回：模擬授業および指導③【表現：創作】(ICT活用を含む)</p> <p>第13回：模擬授業および指導④【鑑賞】西洋音楽 (ICT活用を含む)</p> <p>第14回：模擬授業および指導⑤【鑑賞】日本伝統音楽 (ICT活用を含む)</p> <p>第15回：改善指導案による模擬授業と音楽科指導法Ⅰ.Ⅱの総括</p>			

定期試験

テキスト

改訂版 最新 中等科音楽教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中学校・高等学校教員養成課程用 中等科音楽教育研究会編 音楽之友社。中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示）・高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年告示）。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験60%、課題40%

授業科目名： 音楽科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：井上幸一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬授業で実際に使用する校種別指導案やワークシートを作成できるようにする。</li> <li>2. 他者と協働しながら模擬授業を実践することができる。</li> <li>3. 音楽の特性に応じた情報機器や教材の効果的な活用ができるようになる。</li> </ol>			
<p>「音楽科指導法Ⅲ」においては、「音楽科指導法Ⅰ～Ⅱ」で修得した基礎的な知識や指導技術をさらに深め、講義と模擬授業をとおして ICT 機器の活用を含む実践的指導力を身につけることを目的とする。模擬授業ための学習指導案の作成、ワークシートの作成および歌唱、和楽器、リズム創作、鑑賞（西洋音楽、日本伝統音楽）による模擬授業を実施する。また、模擬授業の振り返りとグループディスカッションをとおした検討をもとに教育実習に向けた改善学習指導案の作成を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー小学校・中学校・高等学校の関連について</p> <p>第2回：教材研究（ICT活用を含む）</p> <p>第3回：学習指導案の作成、ワークシート作成の応用</p> <p>第4回：模擬授業①【表現：歌唱】共通教材</p> <p>第5回：模擬授業②【表現：歌唱】共通教材</p> <p>第6回：模擬授業③【表現：歌唱】混声合唱</p> <p>第7回：模擬授業④【表現：器楽】リコーダー</p> <p>第8回：模擬授業⑤【表現：創作】リズム創作の応用（ICT活用を含む）</p> <p>第9回：模擬授業⑥【鑑賞】西洋音楽（ロマン派）（ICT活用を含む）</p> <p>第10回：模擬授業⑦【鑑賞】日本伝統音楽（雅楽）（ICT活用を含む）</p> <p>第11回：模擬授業の振り返りにもと基づく改善学習指導案の作成①【表現：歌唱】</p> <p>第12回：模擬授業の振り返りに基づく改善学習指導案の作成②【表現：器楽】</p> <p>第13回：模擬授業の振り返りに基づく改善学習指導案の作成②【表現：創作】</p> <p>第14回：模擬授業の振り返りに基づく改善学習指導案の作成④【鑑賞】（ICT活用を含む）</p> <p>第15回：総括ー理解度の確認</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>改訂版 最新 中等科音楽教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中学校・</p>			

高等学校教員養成課程用 音楽之友社。中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示）・高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年告示）

参考書・参考資料等

教育実習校で使用する音楽の教科書。

学生に対する評価

筆記試験50%、課題50%

授業科目名： 音楽科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：井上幸一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校種の実態や、求められている資質・能力について一層理解を深めることができるようになる。</li> <li>2. 指導と評価の一体化を図った指導方法を身につけ授業を展開できるようになる。</li> <li>3. 特性に応じた情報機器や教材の効果的な活用法を身につけ、実際の指導に生かすことができるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>「音楽科指導法Ⅳ」においては、「音楽科指導法Ⅰ～Ⅲ」において修得した知識や指導技能を生かし、模擬授業をとおしてさらなる実践的指導力を身につけ、教師に求められる資質・能力の一層の向上に資することを目的とする。歌唱の共通教材による模擬授業、混声合唱による模擬授業、日本の民謡による模擬授業、リズム創作による模擬授業、モチーフ創作による模擬授業、日本の伝統音楽、西洋音楽、民族音楽の鑑賞による模擬授業を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー模擬授業①【表現：歌唱】共通教材</p> <p>第2回：模擬授業②【表現：歌唱】共通教材</p> <p>第3回：模擬授業③【表現：歌唱】混声合唱</p> <p>第4回：模擬授業④【表現：歌唱】日本民謡</p> <p>第5回：模擬授業⑤【表現：歌唱】外国曲</p> <p>第6回：模擬授業⑥【表現：器楽】リコーダー</p> <p>第7回：模擬授業⑦【表現：創作】モチーフ（ICT活用を含む）</p> <p>第8回：模擬授業⑧【表現：創作】モチーフの応用（ICT活用を含む）</p> <p>第9回：模擬授業⑨【鑑賞】西洋音楽Ⅰ（バロック）（ICT活用を含む）</p> <p>第10回：模擬授業⑩【鑑賞】西洋音楽Ⅱ（古典派）（ICT活用を含む）</p> <p>第11回：模擬授業⑪【鑑賞】西洋音楽Ⅲ（近現代）（ICT活用を含む）</p> <p>第12回：模擬授業⑫【鑑賞】日本伝統音楽Ⅰ（能楽）（ICT活用を含む）</p> <p>第13回：模擬授業⑬【鑑賞】日本伝統音楽Ⅱ（歌舞伎）（ICT活用を含む）</p> <p>第14回：模擬授業⑭【鑑賞】民族音楽（ガムラン）（ICT活用を含む）</p> <p>第15回：総括ー理解度の確認</p> <p>定期試験</p>			

## テキスト

改訂版 最新 中等科音楽教育法 2017/18年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中学校・高等学校教員養成課程用 音楽之友社。中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示）、高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年告示）。

## 参考書・参考資料等

教育実習において使用する音楽の教科書。

## 学生に対する評価

レポート40%、課題60%

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 選択科目（大学独自 高校） 必修科目（基礎的 中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：佐長健司 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳、及び道徳教育の基礎的な理論について理解する。</li> <li>2. 道徳教育の実践について考え、望ましいあり方を判断する。</li> <li>3. 道徳教育について、理論的な興味と実践意欲を高めようとする。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本講義では、中学校道徳教育について、理論と実践の両面から考察する。第1は、道徳的行為についての理論的考察である。また、現代社会の諸課題、及び諸外国と過去の道徳教育をも論じる。第2に、道徳科の授業開発と模擬授業を行い、学習評価にも及んで実践的に考察する。第3は、日常的な道徳的指導についての実践的考察である。具体的な問題場を設定し、指導と評価のあり方について検討を行う。</p>			
授業計画			
第1回：第1回：オリエンテーションー道徳教育			
第2回：幸福の追求			
第3回：道徳の法則			
第4回：道徳の計算			
第5回：道徳的行為の熟達			
第6回：本来的自己の形成			
第7回：道徳と現代の諸課題			
第8回：道徳教育の歴史			
第9回：学習指導要領の道徳教育			
第10回：道徳科授業「手品師」の批判的検討			
第11回：道徳科授業「手品師」の改善と学習指導案作成			
第12回：道徳科授業「手品師」の実践（模擬授業）			
第13回：道徳科授業「手品師」の模擬授業の省察			
第14回：道徳の学習評価			
第15回：総括とレポート作成の準備			
定期試験			
テキスト			

文部科学省、2018、『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、・文部科学省、2018、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』教育出版

参考書・参考資料等

カント、2012、『道徳形而上学の基礎づけ』（訳・中山元）光文社、ハイデガー、マルティン、2013、『存在と時間』（訳・高田珠樹）作品社

学生に対する評価

レポート50% 課題30% 受講状況20%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今井竜也 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権概念と、日本における憲法の成り立ちおよび歴史を正しく理解し、説明できる。</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理を正しく理解し、説明できる。</li> <li>3. 基本的人権全般の持つ特質、精神的自由権、経済的自由権、人身の自由について正しく理解し、説明できる。</li> <li>4. 国を統治する役割を担う統治組織の仕組みと働きについて正しく理解し、説明できる。</li> <li>5. 現在進展している憲法改正議論について、その論点と改正の方向性を正しく理解し、説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法制定の経緯や憲法の基本的概念、その特質を理解しながら、人権の中でも特に自由権と呼ばれる権利の性質について深く学ぶ。また、国を統治する統治機構の役割を、日本国憲法の規定に基づき、実際の運用状況や学説、判例を交えながら詳細に論じる。さらに、現在進行中の憲法改正に関する議論にも触れ、改正の必要性や課題について考察することで、日本国憲法の今後の展望を探る。これにより、日本国憲法に関する包括的な理解を深めることをめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法とは何か - 「憲法」の大まかなイメージをつかむ</p> <p>第2回：人権の歴史 - 人権という概念はどのようにして生まれたのか</p> <p>第3回：日本における憲法の歴史 - 大日本帝国憲法から日本国憲法へ</p> <p>第4回：日本国憲法の基本原理① - 立憲主義、国民主権</p> <p>第5回：日本国憲法の基本原理② - 象徴天皇制、皇室制度</p> <p>第6回：日本国憲法の基本原理③ - 平和主義、防衛政策</p> <p>第7回：包括的基本権 - 幸福追求権、法の下での平等</p> <p>第8回：精神的自由権① - 思想・良心の自由</p> <p>第9回：精神的自由権② - 信教の自由、学問の自由</p> <p>第10回：経済的自由権① - 職業選択の自由、居住・移転の自由</p> <p>第11回：経済的自由権② - 財産権の保障</p> <p>第12回：人身の自由① - 奴隷的拘束および苦役からの自由、適正手続の保障</p> <p>第13回：人身の自由② - 被疑者の権利、被告人の権利</p> <p>第14回：統治組織 - 国会、内閣、裁判所</p>			

## 第15回：憲法改正をめぐる問題 ― 論点と展望

## 定期試験

テキスト 指定しない。パワーポイントを使用。毎時間、資料集、ミニッツペーパー、およびハンドアウト(その日の授業終了後)を配布する。

参考書・参考資料等 授業内で適宜、授業内容に関する参考文献を、文庫本・新書本を中心に紹介することがある。

学生に対する評価 筆記試験 100%

授業科目名： 生涯体育理論と実践1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 久留島 彩織
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯にわたる健康的な運動習慣を身につける事を目標に、どのような運動が適しているのか自分の身体を通して理解し、説明する事ができる。</li> <li>2. 現在の体力や体格を測定・判定し、自己の身体を正しく知ること、今後に向かっての健康生活を考え、自分の考えを述べる事ができる。</li> <li>3. 身近な運動スポーツに興味を持ち、活動する中で積極的に人と関わり、コミュニケーションスキルを高めることができる。</li> <li>4. 基礎体力を養うとともにスポーツ技術の習得や種目のルールを理解し、ゲームが楽しく展開できるよう工夫することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、体力測定等を実施し、運動・スポーツを通じた自己の健康について考える。また、バドミントンやさまざまなレクリエーションスポーツを行いながら運動・スポーツの楽しさを知り、生涯において健康で豊かな生活を送るための基礎知識を修得する。実技授業ではグループでウォーミングアップの企画、準備、実施を多く行うなど、活動を通してコミュニケーション能力を高める。講義では「運動の生活化」について学び、自分自身に合った方法で日々運動・スポーツと向き合うことをめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 健康的な身体</p> <p>第2回：アイスブレイク・コミュニケーションゲーム</p> <p>第3回：体力テスト</p> <p>第4回：ダンス（アイソレーション・リズムジャンプ）</p> <p>第5回：ダンス（リズム体操）</p> <p>第6回：ダンス（現代的な音楽に合わせて踊ってみよう1）</p> <p>第7回：ダンス（現代的な音楽に合わせて踊ってみよう2）</p> <p>第8回：バドミントン（基本の打ち方・ルール）</p> <p>第9回：バドミントン（基本の打ち方・ミニゲーム）</p> <p>第10回：バドミントン（ミニゲーム）</p> <p>第11回：バドミントン（ゲーム）</p> <p>第12回：バドミントン（ゲーム）</p>			

第13回：バドミントン（ゲーム：スマッシュを決めよう）

第14回：講義（発育発達老化と運動）

第15回：講義（運動の生活化）、まとめ

定期試験

テキスト 資料を配付します。

参考書・参考資料等 特にありません。

学生に対する評価 レポート 50%、実技 50%

授業科目名： 生涯体育理論と実践2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 久留島 彩織
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の健康に関心をもち、生活習慣病と運動の関係について知識を得ることができる。</li> <li>2. 現在の体力や体格を測定・判定し、自己の身体を正しく知ること、今後の健康生活を考えることができる。</li> <li>3. 身近な運動スポーツに興味を持ち、積極的に人と関わることで、コミュニケーションスキルを高めることができる。</li> <li>4. 基礎体力を養うとともにスポーツの技術やルールを身につけ、ゲームが楽しく展開できる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>日々の生活を振り返り、身体の状態をチェックし観察することで自分の身体を正しく評価することをめざす。ソフトバレーボールやフットサルなどを行いながら、運動・スポーツを通して健康的な生活習慣について考える。実技授業ではグループ活動を多く行うことで、コミュニケーション能力を高める。講義では、生活習慣病やストレス、女性の健康と運動・スポーツとの関係について学ぶことで、運動・スポーツの重要性を理解し、個人にあった運動を実践していく力を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・レクリエーション			
第2回：健康運動を考える（講義）			
第3回：生活習慣病と運動（講義）			
第4回：自己の身体について（講義）			
第5回：ストレスと運動（講義）			
第6回：体力テスト			
第7回：ソフトバレーボール（ルールの確認）			
第8回：ソフトバレーボール（パス・ゲーム）			
第9回：ソフトバレーボール（ゲーム）			
第10回：ソフトバレーボール（ゲーム）			
第11回：フットサル（パス・コンビネーション・ミニゲーム）			
第12回：フットサル（ゲーム：ルールを覚えよう）			

第13回：フットサル（ゲーム：正確なパス）

第14回：フットサル（ゲーム：シュートに繋ぐ）

第15回：身体と健康（講義）まとめ

定期試験

テキスト 資料を配付します。

参考書・参考資料等 特にありません。

学生に対する評価 レポート 50%、実技 50%

授業科目名： 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：林 千晶 徳江 武 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>リスニングとスピーキングに焦点をあてて英語コミュニケーションの基礎力を定着させる。</li> <li>英語運用能力として最終的に CEFR(欧州言語共通参照枠) A2 レベルの英語を身につける。</li> <li>ペア・グループ活動、プレゼンテーションを通して英語を使える能力を育成する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>急速にグローバル化が進展し、あらゆる分野において世界を舞台に活躍する現代社会において、英語でコミュニケーションする能力はますます重要性を増している。本科目では、口頭表現能力、すなわちリスニング力およびスピーキング力の向上をめざす。日常会話において頻繁に使用される語彙や表現、基礎的な英文法を復習し、ペアワークやグループワークを通じて実践的に使用することで、英語表現の定着を図る。プレイスメントテストに基づきクラス分けを行い、学生の英語運用能力のレベルに応じて柔軟に内容を調整する。</p>			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション・英語学習アンケート・自己紹介および課題の説明			
第 2 回：語彙小テスト Unit 1 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 3 回：語彙小テスト Unit 2 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 4 回：語彙小テスト・Unit 3 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 5 回：語彙小テスト・Unit 4 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 6 回：語彙小テスト・Unit 5 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 7 回：語彙小テスト・Unit 6 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 8 回：Midterm Test ・ Short Presentation			
第 9 回：語彙小テスト・Unit 7 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 0 回：語彙小テスト・Unit 8 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 1 回：語彙小テスト・Unit 9 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 2 回：語彙小テスト・Unit 1 0 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 3 回：語彙小テスト・Unit 1 1 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 4 回：語彙小テスト・Unit 1 2 ・コミュニケーション活動・振り返り			
第 1 5 回：Presentation ・ Peer Review ・ 総括			
定期試験			
テキスト Complete Communication book1 James Bury, Anthony Sellick, Kaori Horiuchi SEIBIDO			
参考書・参考資料等 オンライン学習システム English Central			
学生に対する評価 筆記試験 40%, 課題 25%, 受講態度 25%, その他(小テスト) 10%			

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：林 千晶 徳江 武 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. リスニングとスピーキングに焦点をあてて日常英語でのコミュニケーション能力を定着させる。</p> <p>2. 英語運用能力としてCEFR(欧州言語共通参照枠) A2-B1 レベルの英語を身につける。</p> <p>3. ペア・グループ活動、プレゼンテーションを通してより積極的に英語を使う能力や態度を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>この科目では、英語での口頭表現力つまりリスニング力とスピーキング力の向上をめざす。「英語コミュニケーションⅠ」での内容をレベルアップし、英語でのインストラクションの割合を高め、学生にもより多くの意見を英語で表現するよう促す。さまざまな話題を扱って利用頻度の高い語彙や表現、基礎英文法を修得し、ペアワークやグループワークで実際に使いながらより適切な英語表現の定着を図る。学習内容は学生の英語運用能力レベルに応じて柔軟に内容を取り扱う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション・英語学習アンケート・課題説明・教材導入 (Unit1)</p> <p>第2回：語彙小テスト・Unit 2・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第3回：語彙小テスト Unit3・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第4回：語彙小テスト・Unit4・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第5回：語彙小テスト・Unit5・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第6回：語彙小テスト・Unit6・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第7回：語彙小テスト・Unit7・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第8回：Midterm Test ・ Short Presentation</p> <p>第9回：語彙小テスト・Unit8・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第10回：語彙小テスト・Unit9・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第11回：語彙小テスト・Unit10・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第12回：語彙小テスト・Unit11・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第13回：語彙小テスト・Unit12・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第14回：語彙小テスト・Unit13・コミュニケーション活動・振り返り</p> <p>第15回：Presentation・Peer Review・総括</p>			
定期試験			
テキスト Complete Communication book2 James Bury, Anthony Sellick, Kaori Horiuchi SEIBIDO			
参考書・参考資料等 オンライン学習システム English Central			
学生に対する評価 筆記試験 40%, 課題 25%, 受講態度 25%, その他(小テスト) 10%			

授業科目名： デジタルスキルA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新原俊樹 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 電子ファイルや電子メールの管理手法を理解し、PC環境を調整して快適に利用することができる。</p> <p>2. WordやPowerPointの基本操作を理解し、レポートやプレゼンテーション資料を作成することができる。</p> <p>3. Excelの基本操作を理解し、代表的な関数を使ってデジタル作業を効率化することができる。</p> <p>ChatGPTのしくみを理解し、ChatGPTから適切な情報を得るための指示を出すことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学生生活の中で必須のスキルとなるコンピューターやオフィスソフトウェア（Word・Excel・PowerPointなど）の基本操作について学習する。この授業では、各ソフトウェアの基本的な操作から解説し、レポートやプレゼンテーション資料の作成、データ集計の方法について、演習を通じて修得する。また、社会のさまざまな場面で利活用が進むAI（人工知能）について、生成AIの代表的なサービスであるChatGPTの操作に触れ、最先端の技術を修得する意義について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：デジタル作業の効率化(1) 電子ファイルの管理</p> <p>第3回：デジタル作業の効率化(2) 電子メールの管理</p> <p>第4回：デジタル作業の効率化(3) 環境設定</p> <p>第5回：Wordの基礎(1) 基本操作</p> <p>第6回：Wordの基礎(2) 文書作成</p> <p>第7回：PowerPointの基礎(1) 基本操作</p> <p>第8回：PowerPointの基礎(2) スライド作成</p> <p>第9回：Excelの基礎(1) 基本操作</p> <p>第10回：Excelの基礎(2) フィルター・並び替え・値の集計</p> <p>第11回：Excelの基礎(3) 条件に応じた動作の切り替え手法</p> <p>第12回：Excelの基礎(4) 表からデータを取り出す手法</p> <p>第13回：Excelの基礎(5) 条件に合う数値の合計手法</p> <p>第14回：AIの活用(1) ChatGPTとは</p>			

第15回：AIの活用(2) ChatGPTの利用
テキスト 授業中に適宜紹介する。
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 課題40%、受講態度20%、その他(小テスト) 40%

授業科目名： デジタルスキルB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新原俊樹 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>WordやPowerPointで作成した成果物を用いて、動画コンテンツを作成することができる。</li> <li>Excel関数のうち、実務の現場で利用頻度が高い代表的な関数の扱い方を理解し、さまざまな課題に対して適切に関数を選択・実装して作業を効率化することができる。</li> <li>生成AIのしくみを理解し、文章・動画・音楽等の各コンテンツの生成AIの操作方法に習熟する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>「デジタルスキルA」に続き、社会に出てから必須のスキルとなるコンピューターやオフィスソフトウェア（Word・Excel・PowerPointなど）の利活用方法について学習する。この授業では、各ソフトウェアの応用的な操作手法について、演習を通じて修得する。また、社会のさまざまな場面で利活用が進むAI（人工知能）について、文章・動画・音楽等の各コンテンツの生成AIの操作に慣れ、最先端の技術を修得するためのリテラシーを醸成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Officeによる動画製作(1) 動画用スライドの作成</p> <p>第3回：Officeによる動画製作(2) ストーリーの検討</p> <p>第4回：Officeによる動画製作(3) 動画の編集</p> <p>第5回：Excel関数(1) Excelの操作</p> <p>第6回：Excel関数(2) 条件に応じた計算新</p> <p>第7回：Excel関数(3) データの参照</p> <p>第8回：Excel関数(4) 条件に応じた集計処理</p> <p>第9回：Excel関数(5) 日付の計算</p> <p>第10回：Excel関数(6) 文字列データの処理</p> <p>第11回：Excel関数(7) 条件に応じた高度な集計処理</p> <p>第12回：AI活用の最前線(1) 文章生成AIのしくみ</p> <p>第13回：AI活用の最前線(2) 文章生成AIの利用</p> <p>第14回：AI活用の最前線(3) 動画生成AI</p> <p>第15回：AI活用の最前線(4) 音楽生成AI</p> <p>テキスト 授業中に適宜紹介する。</p> <p>参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。</p>			

学生に対する評価 課題40%、受講態度20%、その他（小テスト）40%

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐長健司 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に関する、原理的な知識と理解を獲得できる。</li> <li>2. 教育について、普遍的な視点から思考と判断ができる。</li> <li>3. 近代公教育の目的と変遷を参照して、今日の教育課題を多面的に検討することができるようになる</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本講義では、現在の学校教育に限定することなく、普遍的な視点から時間や場所を越えて、教育とは何かと問い、教育の本質について原理的に考察する。そうすることによって、学校教育について学ぶための根本的な基礎づけを図る。環世界を拡張する教育、ダブル・バインドの教育や、近代公教育の目的と変遷についての知識を修得し、考察力を身につけることを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育の構造			
第2回：環世界を拡張する教育			
第3回：ダブル・バインドの教育			
第4回：最近接発達領域と拡張的学習の教育			
第5回：状況に埋め込まれた学習と教育			
第6回：実存の学びと教育			
第7回：近代公教育の目的と制度（1）学校の構想			
第8回：近代公教育の目的と制度（2）近代の子ども観			
第9回：近代公教育の目的と制度（3）近代公教育の成立			
第10回：近代公教育の目的と制度（4）日本における近代公教育制度の成立			
第11回：戦後日本の教育（1）学校の再編成			
第12回：戦後日本の教育（2）学校と社会 経験主義の子ども観			
第13回：今日の教育課題（1）グローバル化と自己実現			
第14回：今日の教育課題（2）21世紀型学力と教育格差			
第15回：総括とレポート作成の準備			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

適宜、資料を配付する。

ヴィゴツキー、レフ、2003（1935）、『「発達最近接領域」の理論—教授・学習過程における子どもの発達』（訳・土井捷三／神谷英司）三学出版

学生に対する評価

レポート40% 受講状況20% その他（ノートの記述）40%

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸川 央 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師および学校に関する基礎的な事項について理解する。</li> <li>2. 教師および学校の望ましいあり方について考え、判断し、理想像を描く。</li> <li>3. 教職志望の意欲と自覚を高めようとすることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教職志望の意欲と自覚を高めるように、教師、子ども、学校教育の制度、教育課程と学習評価、地域・保護者との連携等についての基礎的な理解を図るとともに、教師と学校の理想像を描くようにする。教師と子ども、過去の学校教育、海外の学校教育、教員の職務内容と法制度、チーム学校運営と学級経営、学習指導要領と教育課程、生徒指導と道德教育、保護者・地域との連携、教師の働き方改革について学習し、理想的な教師と学校についてディスカッションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー教師と子ども</p> <p>第2回：教師の養成と採用</p> <p>第3回：福岡県教員採用試験の実際</p> <p>第4回：これまでの学校教育</p> <p>第5回：海外の学校教育</p> <p>第6回：教員の職務内容と法制度</p> <p>第7回：チーム学校運営と学級経営</p> <p>第8回：学習指導要領と教育課程</p> <p>第9回：授業研究</p> <p>第10回：生徒指導と道德教育</p> <p>第11回：保護者・地域との連携</p> <p>第12回：教師の働き方改革</p> <p>第13回：討論Ⅰ：理想的な教師</p> <p>第14回：討論Ⅱ：理想的な学校</p> <p>第15回：総括とレポート作成の準備</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

授業中に適宜紹介する。

参考書・参考資料等

佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房 2019 その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート60%、課題40%

授業科目名： 教育行政	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永利和則 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1.教育行政や学校を取り巻く制度的枠組みについて理解できる。</p> <p>2.教育行政組織と学校現場や教員との関係性を正しく理解できる。</p> <p>3. 教育行政機関の働きや制度について主体的に考察、判断できる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、教育を支える制度・行政・法律の仕組みについて学び、現代の教育改革についての知識の修得を目的とする。特に、公立学校・特別支援教育などの学校教育に関する教育行政について、深く理解できるように授業を進める。また、教育行政の動向と課題、地方教育行政と教育委員会制度、国の教育行政と文部科学省、教育行政組織の変化、学校教育に関する児童・生徒、保護者の権利や、学校の安全管理と経営、学校経営と学級経営、学校と地域の連携など、現代の公教育制度について多角的に学習する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：第1回：教育行政と教育行政学：教育行政の動向と課題</p> <p>第2回：教育行政を動かす組織①：地方教育行政と教育委員会制度</p> <p>第3回：教育行政を動かす組織②：国の教育行政と文部科学省</p> <p>第4回：教育行政を動かす組織③：教育行政組織の変化</p> <p>第5回：教育を受ける権利①：学校教育に関する児童・生徒、保護者の権利</p> <p>第6回：教育を受ける権利②：義務教育と就学保障</p> <p>第7回：教育を受ける権利③：特別なニーズをもつ子どもの教育</p> <p>第8回：学校の安全管理と経営</p> <p>第9回：学校経営と教育</p> <p>第10回：学級経営の仕組みと方法</p> <p>第11回：学校と地域の連携</p> <p>第12回：生涯学習・社会教育行政</p> <p>第13回：教職員の養成・採用・研修と身分保障</p> <p>第14回：教育課程行政と教科書</p> <p>第15回：総括</p>			
テキスト			
勝野正章・藤本典裕編『教育行政学 改訂新版』学文社 2015			

参考書・参考資料等

木栄一編著『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房 2019 井深雄二他編著『テキスト教育と教育行政』勁草書房 2015

学生に対する評価

筆記試験50% レポート30% 受講状況20%

授業科目名： 教育心理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村太一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実践に必要な心理学の基礎知識を習得する。</li> <li>2. 自己の経験や社会事象等と学習内容を関連させ、考えを深めることができる。</li> <li>3. 教師として求められる人間理解と児童生徒に接する姿勢・構えを意識することができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>教育実践では、発達理論や人間関係論など心理学的な視点が必要である。本講義では教育者として児童生徒や保護者の心と行動を理解し、適切な援助や指導ができるように心理学的知識を身につけることを目的とする。また、単に知識を習得するだけでなく、将来教師として子どもたちと関わることをイメージすること、学生同士で考えを共有することなど、主体的な学びを重視する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育心理学とは			
第2回：発達について			
第3回：学習について			
第4回：動機付けについて			
第5回：知能について			
第6回：記憶と認知について			
第7回：学習過程			
第8回：学習活動			
第9回：学習評価			
第10回：パーソナリティ			
第11回：仲間関係			
第12回：問題行動			
第13回：ストレスと健康			
第14回：障がいの理解と特別支援			
第15回：これまでの学修のまとめ			
テキスト			
たのしく学べる最新教育心理学―教職にかかわるすべての人に 桜井茂男編集 図書文化			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

期末試験50% 課題50%

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：今里順一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の考え方を理解し、特別な支援を必要とする児童生徒の支援に活かそうすることができる。</li> <li>・教職を目指す視点から、特別な支援を必要とする児童生徒の学習上又は生活上の困難と対応について考えることができる。</li> <li>・特別支援教育に対する取り組みの重要性を理解し、様々な児童生徒に対する理解と支援に関する意識を高めることができる。</li> <li>・特別支援教育の推進にかかわる基礎・基本を身につけることができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>特別の支援を必要とする児童生徒の障害の特性や心身の発達を理解する。特別の支援を必要とする児童生徒に対する教育課程及び支援の方法を理解する。障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：第1回：授業計画オリエンテーション：特別支援教育とは 第2回：特別支援学校における教育 第3回：小・中学校における特別支援教育 第4回：学習指導要領と教育課程 第5回：通級による指導と自立活動について 第6回：個別の指導計画と教育支援計画の意義及び作成の手順 第7回：特別支援学校のセンター的機能及び関係機関との連携 第8回：障害がないが特別の教育的ニーズがある児童生徒の理解と支援</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「小学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領」文部科学省 「特別支援学校学習指導要領」文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>ミニレポート（50%）、最終レポート（50%）</p>			

授業科目名： 教育課程概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸川 央 馬場 耕成 担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の意義、教育課程編成の方法を理解している。</li> <li>2. 学習指導要領の変遷と教育課程の関係を理解している。</li> <li>3. カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、方法を理解している。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>教育課程の意義、教育課程編成の基本原理についての理解を深める。日本の戦後復興から現代にいたる学習指導要領の変遷を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解するとともに実践的な知識を修得する。また、近年の教育課程における新たな取り組みについて学習し、今日的な教育における課題と社会に開かれた教育課程について考察する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス・・・教育課程とカリキュラム（担当：岸川央）			
第2回：教育課程編成の基本原理（担当：岸川央）			
第3回：学習指導要領の意義と各学校における教育課程編成（担当：岸川央）			
第4回：教育課程行政の基礎知識（担当：岸川央）			
第5回：教科書と学習指導要領（担当：岸川央）			
第6回：学習指導要領の変遷(1)・・・戦後復興からゆとり路線まで（担当：岸川央）			
第7回：学習指導要領の変遷(2)・・・グローバル化と学力観の転換（担当：岸川央）			
第8回：社会に開かれた教育課程（担当：馬場耕成）			
第9回：育成を目指す資質・能力（担当：馬場耕成）			
第10回：教科等横断的視点によるカリキュラム編成と実施（担当：馬場耕成）			
第11回：主体的・対話的で深い学びの実現（担当：馬場耕成）			
第12回：カリキュラム・マネジメントの意義と重要性（担当：馬場耕成）			
第13回：教育課程の実施と評価（担当：馬場耕成）			
第14回：教育課程をめぐる今日の動向と課題（担当：馬場耕成）			
第15回：学修のまとめと確認（担当：岸川央、馬場耕成）			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			

広岡義之編著『はじめて学ぶ教育課程』（ミネルヴァ書房）2018

吉田武男監修・編者『教育課程 はじめて学ぶ教職』（ミネルヴァ書房）2019

田村知子編著『カリキュラムマネジメントの理論と実践』（日本標準）2022

その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート80%、課題20%

授業科目名： 特別活動および総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福嶋真郷 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法 特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動や総合的な学習の時間の意義や内容を踏まえ、指導に活かすことができる。</li> <li>・特別活動や総合的な学習の時間の基本的な考え方を踏まえ、活動の意味を考えることができる。</li> <li>・特別活動や総合的な学習の時間について興味・関心を持ち、指導への意識を高めることができる。</li> <li>・特別活動や総合的な学習の時間の指導に関する基礎・基本を身につける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育を特徴付け、学校文化を形成する特別活動の意義や内容を踏まえ、指導に関する基礎・基本を身につける。また、総合的な学習の時間の現状と課題、特別活動との関連についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 特別活動の目標と教育的意義</p> <p>第2回：学級活動の目標と内容</p> <p>第3回：生徒会活動の目標と内容</p> <p>第4回：学校行事の目標と内容</p> <p>第5回：特別活動の指導計画の作成とPDCAサイクル</p> <p>第6回：特別活動の指導計画の作成と評価（全体）</p> <p>第7回：特別活動の指導の実際と指導計画の作成（学級活動，ホームルーム活動）</p> <p>第8回：特別活動の指導の実際と指導計画の作成（生徒会活動，学校行事）</p> <p>第9回：特別活動の指導の実際と課題</p> <p>第10回：学級活動の指導の実際、学級経営案の基本</p> <p>第11回：学級活動の指導の実際（課題をもとにした演習）</p> <p>第12回：「総合的な学習（探究）の時間」の意義と目標及び内容（学習指導要領,理念と背景）</p> <p>第13回：「総合的な学習（探究）の時間」の年間指導計画の作成と事例検討</p> <p>第14回：「総合的な学習（探究）の時間」の単元計画の作成と事例検討</p> <p>第15回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導と評価及び探究的な学習の実践と課題</p>			

定期試験
テキスト 中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編（文部科学省） 中学校・高等学校学習指導要領 解説 総合的な学習（探究）の時間編（文部科学省）
参考書・参考資料等 『学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）』文部科学省 1,500円＋税 東京書籍 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』文部科学省421円（税込）
学生に対する評価 筆記試験20% 課題40% 実技20%（学級活動の指導についての演習） 受講状況20%

授業科目名： 教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田本正一 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学習指導の手法と評価について理解することができる。</li> <li>2.教材開発の方法、授業構成の方法などについて考察できる。</li> <li>3.ICTを駆使し、効果的に学校行事や教育活動の成果を伝えることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、情報機器ならびに視聴覚教材の意義を理解し、実践的活用能力を身につけるために教材研究、教材づくりを行う。学習内容は、教育方法としてのディベート、目標及び授業構成、学習評価、カリキュラム、アクティブ・ラーニングについて知識を修得する。教育方法としての情報通信技術と校務の推進や、情報活用能力（情報モラルを含む）に関わる指導法を身に付けるとともに、教育実習を想定し、モジュール型模擬授業のプレゼンテーションを課す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育方法の概論（授業構成論）</p> <p>第2回：教育方法としてのディベート</p> <p>第3回：アカデミックディベート実践と考察－ICT機器の活用－</p> <p>第4回：パブリック・ディベート実践と考察－ICT機器の活用－</p> <p>第5回：教育方法としての目標論</p> <p>第6回：教育方法としての授業構成論、学習評価論</p> <p>第7回：教育方法としてのカリキュラム構成論</p> <p>第8回：教育方法としての主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング</p> <p>第9回：情報通信技術と校務の推進</p> <p>第10回：情報活用能力（情報モラルを含む）と指導法</p> <p>第11回：教育内容の構成－ICT活用による学習指導案の作成－</p> <p>第12回：目標と学習評価の構成－ICT機器を効果的活用による学習指導案の作成－</p> <p>第13回：模擬授業1：作成した授業の実践－ICT機器の活用を踏まえて－</p> <p>第14回：模擬授業2：授業実践の考察－プレゼン資料作成－</p> <p>第15回：ICT機器の活用による総括</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

なし。配布プリントによる講義を行う。

参考書・参考資料等

中、高等学校学習指導要領（文部科学省）

学生に対する評価

筆記試験（60%）、プレゼンテーションなどの演習（40%）

授業科目名：生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福嶋真郷 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒・進路指導の意義と内容を理解し、課題解決に活かそうとすることができる。</li> <li>2. 教職を目指す視点から生徒・進路指導の課題を考えることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、生徒指導の役割と意義を踏まえ、積極的な生徒指導の在り方及びキャリア発達の視点にたったキャリア教育、進路指導の在り方の基礎的な知識の修得を目的とする。生徒の心理と理解、生徒指導の進め方「教師の自己理解」、学校における生徒指導体制の確立、教育相談の意義・進め方、生徒指導の進め方（個別課題の指導）、生徒指導の進め方（組織的な指導）、学校と家庭・地域・関係機関との連携、生徒指導に関する関係法令と制度キャリア教育・進路指導の意義と原理、キャリア教育・進路指導の指導体制、キャリア教育の進め方について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー生徒指導と教育課程</p> <p>第2回：今日の生徒指導の課題</p> <p>第3回：生徒の心理と理解</p> <p>第4回：生徒指導の進め方「教師の自己理解」</p> <p>第5回：学校における生徒指導体制の確立</p> <p>第6回：教育相談の意義・進め方</p> <p>第7回：生徒指導の進め方（個別課題の指導[個別指導]）（暴力行為,いじめ,不登校等）</p> <p>第8回：生徒指導の進め方（組織的な指導[集団指導]）</p> <p>第9回：学校と家庭・地域・関係機関との連携①（連携する人，形態）</p> <p>第10回：学校と家庭・地域・関係機関との連携②（虐待など）</p> <p>第11回：生徒指導に関する関係法令と制度①</p> <p>第12回：生徒指導に関する関係法令と制度②具体的な事例</p> <p>第13回：キャリア教育・進路指導の意義と原理</p> <p>第14回：キャリア教育・進路指導の指導体制（3年間の指導計画）</p> <p>第15回：キャリア教育の進め方（職業体験，キャリアカウンセリング）</p> <p>定期試験</p>			

## テキスト

『生徒指導提要』令和4年12月改訂 文部科学省 900円＋税 東洋館出版社

## 参考書・参考資料等

中学校・高等学校キャリア教育の手引き 文部科学省 2,500円＋税 実業之日本社

「よくわかる生徒指導・キャリア教育」小泉令三編著 2,400円＋税 ミネルバ書房

## 学生に対する評価

筆記試験20% 課題40% 実技20% 受講状況20%

授業科目名： 教育相談概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福嶋真郷 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談に求められる知識を課題解決に活かそうとすることができる。</li> <li>2. 教育相談に求められる基本的な態度を意識することができる。</li> </ol> <p>自己理解を深め、人間理解の基礎的な技能を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、具体的な生徒指導を行う上で重要な位置づけとなる教育相談の基礎理論や技能の修得を目的とする。教育相談の基本姿勢と技法、学級担任、教科担任が行う教育相談、教育相談の実際、教育相談に役立つ心理テスト等、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキル・トレーニング、ストレスマネジメント、教育相談と事例研究、不登校と教育相談、いじめと教育相談、非行と教育相談・関係機関との連携、スクールカウンセラーとの連携、スクールソーシャルワーカーとの連携、保護者理解・保護者との連携について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー教育相談とは何か</p> <p>第2回：育相談の基本姿勢と技法（カウンセリングマインド）</p> <p>第3回：学級担任，教科担任が行う教育相談</p> <p>第4回：教育相談の実際（1対1の面接）について</p> <p>第5回：教育相談に役立つ心理テスト等</p> <p>第6回：積極的な教育相談1（構成的グループエンカウンター）</p> <p>第7回：積極的な教育相談2（ソーシャルスキル・トレーニング）</p> <p>第8回：積極的な教育相談3（ストレスマネジメント）</p> <p>第9回：教育相談と事例研究（事例研究法の特徴）</p> <p>第10回：不登校と教育相談（具体的な事例研究）</p> <p>第11回：いじめと教育相談（具体的な事例研究）</p> <p>第12回：非行と教育相談・関係機関との連携（具体的な事例研究）</p> <p>第13回：スクールカウンセラーとの連携（事例研究）</p> <p>第14回：スクールソーシャルワーカーとの連携（事例研究）</p> <p>第15回：保護者理解・保護者との連携</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

『生徒指導提要』文部科学省 276円＋税 教育図書株式会社

参考書・参考資料等

『子どもと学校』河合隼雄 740円＋税 岩波新書

学生に対する評価

筆記試験20% 課題40% 実技20% 受講状況20%

シラバス：教職実践演習（中学校・高等学校）

シラバス：教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名：岸川 央			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握 (※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 20名程度					
教員の連携・協力体制 教職課程委員会及び教科の指導法等を担当する教員による連携を図る。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 教育実習を通して得られた経験と課題を客観的に捉えることができる。 2. 教員に必要な確かな資質・能力や教科指導の知識・技能を身につけることができるようになる。					
授業の概要 教職科目の集大成として位置づけ、これまでの履修科目を総括するとともに、教育実習を振り返り、より実践的な教科指導の能力を修得することを目的とする。履修カルテの振り返り、教育実習の振り返り、観点別学習状況の評価の趣旨と評定までのプロセスの理解、年間指導計画作成の意義とその作成方法、合唱コンクールの企画立案、道德教育と音楽科との関り、学級経営と進路指導などの実践的課題について学習するとともにディスカッションを行う。					
授業計画 第1回：ガイダンスー授業内容および課題等の提出方法についての説明 第2回：履修カルテの振り返り 第3回：教育実習の振り返り 第4回：観点別学習状況の評価の趣旨と評定までのプロセスの理解 第5回：年間指導計画作成の意義とその作成方法 第6回：年間指導計画の発表 第7回：合唱コンクールの企画立案 第8回：GIGAスクール構想における音楽科のICT機器の活用 第9回：「いじめ」や「不登校」などの実態と改善 第10回：部活動指導と保護者対応 第11回：道德教育と音楽科との関り 第12回：中学校の特別支援学級 第13回：学級経営と進路指導 第14回：ウェルビーイングと音楽教育 第15回：総括ー教職実践演習のまとめとレポートの作成					
テキスト 授業中に適宜紹介する。					
参考書・参考資料等 教育実習において使用した音楽の教科書。					

学生に対する評価

レポート60%。課題40%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。